

Title	聖学院大学総合研究所活動報告(2009年～2011年)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.53 別冊, 2012.3 : 9-117
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4254
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

III

聖学院大学総合研究所活動報告

(2009年～2011年)

I	総合研究所の設置理念と組織	9
	(1) 総合研究所の設置理念と沿革	
	(2) 大学総合研究所組織	
II	研究活動と研究成果公開	20
	(1) シンポジウム・セミナー・講演会	
	(2) 共同研究	
	(3) 「聖学院大学総合研究所紀要」45号～53号目次	
	(4) 「聖学院大学総合研究所Newsletter」19巻～21巻目次	
III	聖学院大学出版会活動報告	95
IV	聖学院ポリシーカレッジ活動報告	98
V	カウンセリング研究センター (グリーンフェアルーム・牧会電話相談・牧会サマーセミナー)	101
VI	聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター	106
VII	聖学院キッズ英語	116

I 総合研究所の設置理念と組織

(1) 総合研究所設置の理念と沿革

聖学院大学総合研究所は、聖学院大学創設時に法人理事会に設けられた「聖学院大学の理念」（十ヶ条）を検討する「理念検討委員会」を前身に1988年4月の大学設置とともに、大学付置の研究機関として設立された。その目的は、各学問領域の諸問題を学問的に研究・深化させ、独自の発展を遂げている諸学問間の対話を深め、総合することである。また幼稚園から大学、大学院の教育のあり方を研究する法人のシンクタンクの役割も担うことである。

このような理念のもと、1) 研究センター、2) 研究室を設置し、本報告の「II 研究活動と研究成果公開」にあるように、講演会、シンポジウム、共同研究を実施している。また研究成果公開として、3) 補助活動事業を実施している。さらに法人の中でも、特に4) 大学院の研究部門に位置づけられ、大学院の研究科増設と共に、研究センターを設置して、研究を進めている。

1) 研究センターの設置

今日の学問的状況の中で、研究領域として、「教育」「組織神学」「日本・アメリカ・ヨーロッパ」「ラインホルド・ニーバー」「日韓現代史」「国際金融」「政治経済」「人間福祉」「カウンセリング」の9つを掲げ、それぞれの領域に研究センターを設置している。

1988年の設立当初は、大学も政治経済学部の一学部一学科であり、総合研究所の研究センターも「政治経済研究センター」「科学と教育研究センター」「語学研究センター」「日本・アングロアメリカ研究センター」「キリスト教と文化研究センター」の5つの研究センターであった。

1998年度に、「聖学院大学の理念」にあるプロテスタント・キリスト教神学を研究する「組織神学研究所（後にセンター）」を設立した。

2002年度には、韓国の翰林大学校日本学研究所と共同で「日韓現代史研究

センター」を設立し、朝鮮半島の民衆がどのような経験をし、戦後の国家像をどのように描いていたのかを調査・研究している。また日韓現代史に関する重要資料の収集にあたっている。

2003年度には「カウンセリング研究センター」を設置し、キリスト教カウンセリングの事例研究を開始した。

2007年度に「教育研究センター」「組織神学研究センター」「日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センター」「日韓現代史研究センター」「政治経済研究センター」「人間福祉学研究センター」「カウンセリング研究センター」の7つの研究センターに整理・統合された。

2009年4月には、「国際金融研究室」を発展的に解消し、速水優元日本銀行総裁を記念する「速水記念国際金融研究センター」を設置した。

2009年10月には、これまで断続的に研究されてきたラインホルド・ニーバーの神学と思想を現代社会における意義に焦点を合わせて研究するために「ラインホルド・ニーバー研究センター」を設置した。

2) 研究室の設置

1994年度に「日本・アングロアメリカ研究センター」が設けられたことに伴い、「日本研究室」と「英米研究室」が設置された。

1997年度に「政治経済研究センター」のもとに、地方分権、まちづくりを研究する「現代都市研究室」を設けた。

2005年度には、元日本銀行総裁であられた速水優氏を全学教授に迎え、「国際金融研究室」を設置し、国際的な金融・経済、そして政治の動向を研究する活動をはじめた。この研究室は上記のように速水教授の逝去に伴い、2009年に「速水記念国際金融研究センター」に拡大された。

2006年度の研究センターの改編とともに、各研究センターに研究室が設けられた。組織図(14頁)にあるように教育研究センターの中に「科学教育研究室」、「キリスト教教育研究室」、「語学教育研究室」、組織神学研究センターの中に「人間学研究室」、「ドイツ神学研究室」、「英米神学研究室」が設置されている。

また日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センターには「ピューリタニズム研究室」(ピューリタン・アーカイヴでピューリタン研究の文献資料を収集している)、

「アメリカ研究室」、「日本研究室」、「EU研究室」「英米文学研究室」が設けられている。

政治経済研究センター「現代都市研究室」の名称を「地方自治研究室」に変更した。また2008年度にはカウンセリング研究センターに「スピリチュアル・ケア研究室」が設置された。

これらの研究センター、研究室では、講演会・シンポジウムの開催、共同研究プロジェクトの推進、資料の収集と蓄積などにあたっている。

3) 補助教育事業の実施

総合研究所は設立当初から「語学研修所」(Seigakuin Language Institute)を設立するなど、教育を補助する補助教育事業を展開している。

1991年には、研究成果を出版物で公開するために、「聖学院大学出版会」が設置された。

1994年に自治体職員の研修講座「自治体リーダー養成講座」(年1回集中講座)が開始され、10回を経た段階で評価と見直しがされた。そして2004年度から地方自治研究室のもとに、地方議会議員、また地方自治体職員の研修講座である「聖学院ポリシーカレッジ」が設けられた。この講座は、2010年度で終了となった。

その他、2004年度にはカウンセリング研究センターに心理相談「グリーフケア・ルーム」を設置した。2008年度にカウンセリング研究センターで「教会支援に望むもの——牧会者と信徒のアンケート調査」を実施したが、牧会者が孤立し、相談する場所もないという現状があることが分かった。そこで2009年度から「教会電話相談」(無料)をはじめた。また「教会サマーセミナー」を開設し、牧会者の研修支援プログラムを提供することにした。

また2008年度、人間福祉学研究センターのもとに人間福祉スーパービジョンセンターを設置し、「福祉の現場で働く専門職の方々をスーパーヴァイズするプログラム」として、「個別」「グループ」「ピア」スーパービジョンを実施している。

4) 大学院と総合研究所

1996年には聖学院大学大学院「政治政策学研究科」が設置されたが、総合研究所はその研究部門に位置づけられた。政治政策学研究科の研究活動を推進する役割を果たしてきた。いくつか例を挙げれば、「政治経済研究センター」では、大学院政治政策学研究科と共同で、埼玉県重点施策を政策企画・実施・評価の観点から研究する科目として「埼玉地域政策研究」を開講している。講師は埼玉県の中堅幹部である。また2004年度から埼玉県の自治体職員、地方議会議員を対象にした「聖学院ポリシー・カレッジ」を大学院講座（「先端政策研究」の科目名）として開催している。

税理士志望の学生が多くいることから、「地方自治と税制」などの講演会、シンポジウムを共催している。

1999年度に「アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科」が開設されたが、「日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センター」では、この研究科と共同で、海外からF.W. グラフ、Ch. シュヴェーベルなど著名な学者を招聘し、大学院授業・研究集会を開催している。また「言語文化研究」「ヨーロッパ統合の理念と実態研究」などが実施されている。

2006年度には「人間福祉学研究科」が設置されたのに対応して、「人間福祉学研究センター」を立ち上げ、「福祉のこころ研究」「プライマリーケア政策研究」「人間福祉スーパービジョンセンター」の研究活動を進めている。

大学院と総合研究所が教育と研究の両輪を担う一体の組織であるために、2000年度に大学院・総合研究所事務部が設置された。その後2008年度に大学学術支援部（大学院、研究支援課、図書館司書課）に事務組織の改編がなされ、総合研究所事務は研究支援課が担当することになった。

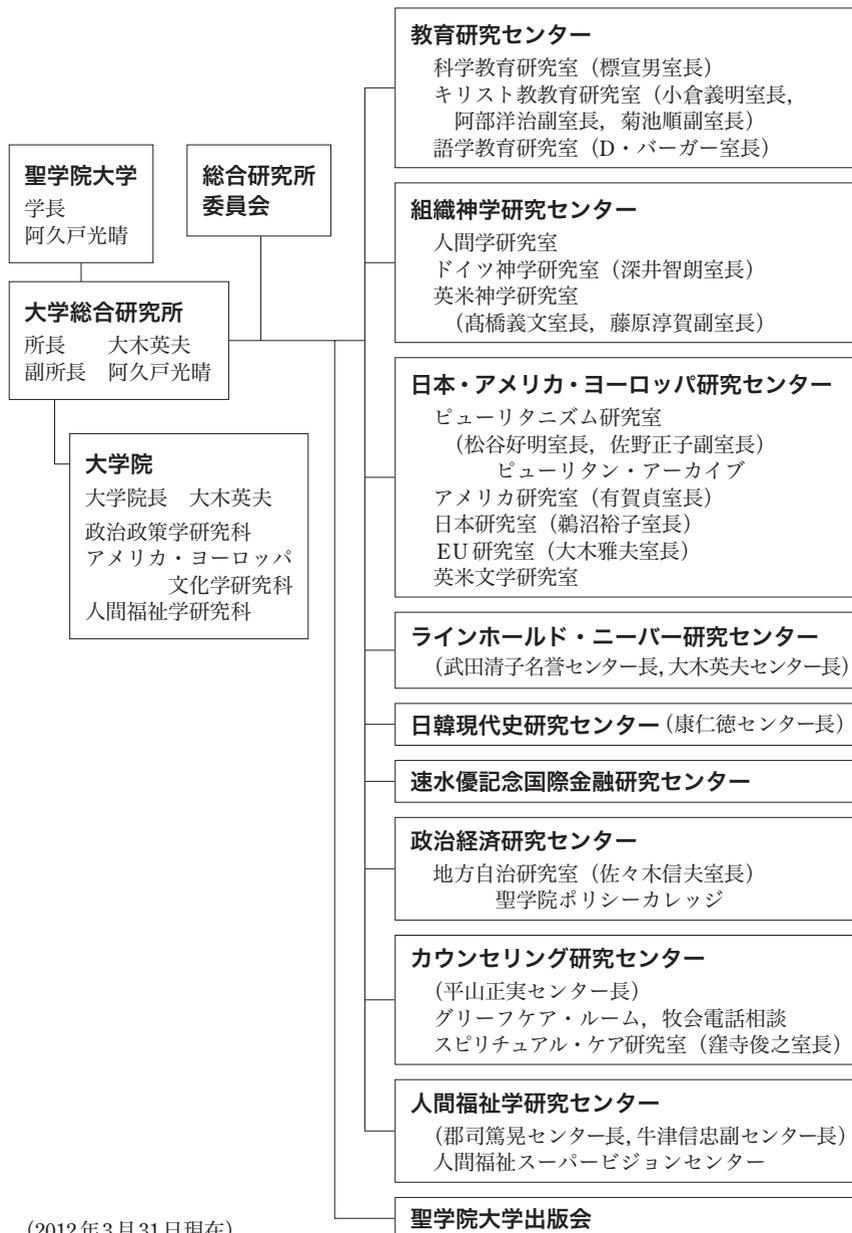
2011年度は総合研究所の活動を大きく見直した。

- 1) 総合研究所組織再編に対応し、研究活動の統合を図った。さまざまな研究活動を3つの研究分野に統合した。
 - ① グローバリゼーション文化総合研究
 - ② 死生学・人間福祉・カウンセリング研究
 - ③ 国際共同研究（「日韓教会交流史研究」「日韓神学会議」など）
- 2) 全法人の緊縮財政方針に対応し、活動を精選し、予算も無駄のないよう計

画する。

- 3) 学部、大学院の研究部門としての位置づけを明確にし、多くの教員、また学部学生、大学院学生の参加するプログラムをめざす。
- 4) 研究会は、2時間以内とし、原則、食事はなしとする。研究会は、講演者に対して、代表質問者（コメンテータ）を内部から立て、2時間以内という短い時間の中で議論を成果あるものとする。

(2) 大学総合研究所組織



(2012年3月31日現在)

総合研究所委員

- 所 長 大木 英夫（大学院長，出版会会長，1988年4月～現在）
- 副所長 阿久戸光晴（大学学長，1995年4月～現在）
- 委 員 小倉 義明（院長，キリスト教センター所長，キリスト教教育研究室長，2004年4月～2012年3月）
- 委 員 阿部 洋治（大学チャプレン，1988年4月1日～2010年3月31日）
- 委 員 菊地 順（大学チャプレン，人文学部チャプレン，キリスト教教育研究室副室長，1988年4月～現在）
- 委 員 佐野 正子（政治経済学部チャプレン，ピューリタニズム研究室副室長，2005年4月1日～現在）
- 委 員 大木 雅夫（政治政策学研究科長，EU研究室長，2004年4月1日～2012年3月31日）
- 委 員 有賀 貞（アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長，アメリカ研究室長，2009年4月1日～2011年3月31日）
- 委 員 高橋 義文（アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長，英米神学研究室長，2011年4月1日～現在）
- 委 員 郡司 篤晃（人間福祉学研究科長，人間福祉学研究センター長，2006年4月1日～2012年3月31日）
- 委 員 土方 透（政治経済学部長，2008年4月1日～2012年3月31日）
- 委 員 稲田 敦子（人文学部長，2008年4月1日～2012年3月31日）
- 委 員 牛津 信忠（人間福祉学部長，人間福祉学研究センター副センター長，2010年4月1日～現在）
- 委 員 エバート・D・オズバーン（国際センター所長，2006年9月1日～2011年8月31日）

所 員

聖学院大学の教員は，全員総合研究所の所員となる（総合研究所規程第7条）。

研究所教員（担当）

- 教 授 大木 英夫（大学院長，研究所長，1988年4月1日～現在）
- 教 授 古屋 安雄（大学院，アメリカ研究室副室長，2001年4月1日～

2012年3月31日)

- 教授 郡司 篤晃 (大学院, 人間福祉学研究センター長, 1998年4月1日
～現在)
- 教授 大木 雅夫 (大学院, EU研究室, 2004年4月1日～現在)
- 教授 有賀 貞 (大学院, アメリカ研究室長, 2001年4月1日～2011年
3月31日)
- 教授【聖約】片柳 榮一 (大学院, 人間学研究室, 2008年4月1日～現在)
- 教授【聖約】松原 望 (大学院, 科学教育研究室, 2008年4月1日～現在)
- 教授 富沢 賢治 (大学院, 都市経営研究, 2006年4月1日～2012年3月
31日)
- 教授 平山 正実 (大学院, カウンセリング研究センター長, 2006年4月
1日～現在)
- 教授 (特任) 窪寺 俊之 (大学院, カウンセリング研究センタースピリチュ
アルケア研究室長, 2008年4月1日～現在)
- 教授 (特任) 柏木 昭 (人間福祉スーパービジョン, 2006年4月1日～
2010年3月31日)
- 教授 (特任) 田中 浩 (現代世界研究, 大学院, 2003年4月1日～現在)
- 教授 (特任) 鶴沼 裕子 (大学院, 日本研究室, 2005年4月1日～現在)
- 教授 (特任) 平石雄一郎 (大学院, 政治経済研究センター, 2006年4月1日
～現在)
- 教授 (特任) 岸田 貞夫 (大学院, 政治経済研究センター, 2006年4月1日
～現在)
- 教授 (特任) 小野 博義 (大学院, 政治経済研究センター, 2006年4月1日
～2010年3月31日)
- 教授【聖約】高橋 義文 (大学院, 組織神学研究センター英米神学研究室,
2007年4月1日～現在)
- 教授 (特任) 栗城 壽夫 (憲法研究, 大学院, 2009年4月1日～現在)
- 教授 (特任) 松谷 好明 (ピューリタニズム研究室, アーカイブ, 学部,
2007年4月1日～現在)
- 教授 深井 智朗 (組織神学研究センター, 大学院, 2007年4月1日～
2012年3月31日)
- 教授 森田美千代 (学部, 大学院, 2010年4月1日～現在)

- 教授【聖約】藤原 淳賀（組織神学研究センター，学部，大学院，2010年4月1日～現在）
- 准教授 ディーン・サザデン（聖学院中学校高等学校，2001年4月～2010年3月31日，2010年4月1日～現在，客員准教授）
- 准教授【聖約】藤掛 明（カウンセリング研究センター，学部，大学院，2007年4月1日～2012年3月31日）
- 准教授【聖約】宮本 悟（日韓研究，2009年4月1日～現在）
- 講師（特任）ブライアン・バード（小学校英語，キッズ英語，2003年4月1日～現在）
- 講師（特任）藤原真知子（小学校英語，キッズ英語，2003年4月1日～現在）
- 助教【聖約】高 萬松（日韓研究，2009年4月1日～現在）
- 助教【聖約】竹淵 香織（カウンセリング研究センター，2009年4月1日～2011年3月31日）
- 助教【聖約】松本 周（組織神学研究センター，2009年4月1日～現在）
- 助教【聖約】佐藤 貴史（組織神学研究センター，2010年4月1日～2011年3月31日）
- 講師（特任）ジャスティン・ナイティンゲール（小学校英語，キッズ英語，2007年4月1日～現在）
- 特命教授 康 仁徳（日韓現代史研究センター，大学院，1999年7月1日～2011年3月31日客員教授，2011年4月1日～現在）
- 特命教授 東野 尚志（日本研究室，日本伝道論，2009年4月1日～2011年3月31日客員教授，2011年4月1日～現在）
- 特命教授 小林 良彰（地方自治研究室，大学院，2000年4月1日～2011年3月31日客員教授，2011年4月1日～2012年3月31日）
- 特命教授 小田川 興（日韓現代史研究センター，2003年4月1日～2011年3月31日客員教授，2011年4月1日～現在）
- 客員教授 佐々木信夫（地方自治研究室，大学院，1994年～2011年3月31日）
- 客員教授 西川太一郎（地方自治研究室，学部，2004年4月1日～現在）
- 客員教授 竹内 整一（日本研究室，2008年4月1日～2010年3月31日）
- 客員教授 加藤 紘一（政治経済研究センター，2008年4月1日～現在）
- 客員教授 枝野 幸男（政治経済研究センター，2008年4月1日～2010年3月31日）

- 客員教授 泉谷周三郎（ピューリタン・アーカイブ，2008年4月1日～現在）
客員教授 大久保正健（ピューリタン・アーカイブ，2008年4月1日～現在）
客員教授 作田 明（カウンセリング研究センター，2010年4月1日～）
客員教授 池 明観（日韓現代史研究センター）（在外，1996年4月1日～
2012年3月31日）
客員教授 J. David Reid（在外1996年4月1日～2012年3月31日）
客員教授 Friedrich Wilhelm Graf（München）（在外，2006年4月1日～2012
年3月31日）
客員教授 Christoph Schwöbel（Tübingen）（在外，2006年4月1日～2012年3
月31日）

特任研究員（ポスト・ドクター）

- PD 木村 美里（ピューリタン研究，EU研究，2009年4月1日～2012
年3月31日）
森島 豊（組織神学研究，2007年4月1日～2012年3月31日）
島田 桂子（英米文学研究，2010年4月1日～現在）
豊川 慎（ピューリタン研究，デモクラシー思想研究，2011年4
月1日～現在）
鈴木 幸（ピューリタン研究，ニーバー研究，2011年4月1日～
現在）
斎藤 伸（ヨーロッパ思想研究，2011年4月1日～現在）
川田 牧人（英語教育研究，2011年4月1日～現在）

特別研究員

- 森川 剛光（ルツェルン大学からの特別研究員，2007年4月1日～現在）

Research Assistant: RA

- 中村 準一（2006年4月1日～2011年3月31日）
鈴木 幸（2006年4月1日～2011年3月31日）
斎藤 薫（2007年4月1日～現在）
豊川 慎（2008年4月1日～2011年3月31日）
越智 裕子（2009年4月1日～現在）

小野澤信一 (2009年4月1日～2011年3月31日)
齋藤 伸 (2009年4月1日～2011年3月31日)
松田寿美子 (2011年4月1日～現在)
兼松 誠 (2011年4月1日～現在)
出野由紀子 (2011年4月1日～現在)

研究技術者

村上 純子 (カウンセリング研究, 2005年4月1日～現在)
堀 肇 (カウンセリング研究, 牧会電話相談, 2009年4月1日～現在)

名誉教授

永岡 薫 2000年2月21日
柏木 昭 2010年4月1日 人間福祉スーパービジョンセンター顧問
金子 晴勇 2011年4月1日
有賀 貞 2012年4月1日

名誉センター長

武田 清子 2009年10月1日 ラインホールド・ニーバー研究センター

II 研究活動と研究成果公開

(1) シンポジウム・セミナー・講演会

聖学院大学総合研究所では、研究活動の公開と内外の研究者との学術交流を深めるという目的から、毎年、シンポジウム、セミナー、講演会などの学術研究集会を開催している。

2009年度から2011年度にかけて下記のシンポジウム・講演会・セミナーを主催した。なお講演者などの所属、身分は発表当時のものである。

1. 2009年4月17日 都市経営シンポジウム「新たな国のかたちを問う——道州制と大都市圏のあり方——」（大宮ソニックシティ・小ホール）【参加者165名】

基調講演1：江口 克彦（道州制ビジョン懇談座長・PHP総合研究所社長）

基調講演2：土居 丈朗（慶應義塾大学教授）

パネルディスカッション：

パネリスト1 上田 清司（埼玉県知事）

パネリスト2 江口 克彦（前掲）

パネリスト3 土居 丈朗（前掲）

コーディネーター：佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授・中央大学教授）

2. 2009年5月15日 小学校教師のための英語指導法セミナー「こうやって教えよう小学校英語！ 現場からの提案」（新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）【参加者60名】

講師：藤原真知子（聖学院大学総合研究所特任講師）

講師：ブライアン・バード（聖学院大学総合研究所特任講師）

3. 2009年5月22日 スピリチュアル・ケア研究室主催講演会「スピリチュアリティの現在とその意味」(新都心ビジネス交流プラザ4階会議室A)
【参加者136名】
講演：島藺 進(東京大学大学院人文社会系研究科文学部宗教学科教授)
司会：窪寺 俊之(聖学院大学大学院教授)
4. 2009年8月14日 カウンセリング研究センター主催牧会サマーセミナー「牧会者の為の癒やしと自己開示」(新都心ビジネス交流プラザ会議室)
【参加者18名】
講演：加藤 常昭(日本基督教団隠退牧師・説教塾主宰)
スタッフ：
平山 正実(聖学院大学大学院教授・精神科医)
窪寺 俊之(聖学院大学大学院教授・臨床パストラルスーパーヴァイザー)
藤掛 明(聖学院大学総合研究所准教授・臨床心理士)
村上 純子(聖学院大学総合研究所非常勤講師・臨床心理士)
5. 2009年10月17日 聖学院大学学術セミナー「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題の展望——」(聖学院本部新館2階集会室)【参加者57名】
講演：康 仁徳(聖学院大学総合研究所客員教授・元統一部長官)
討論(コメント)：
遠藤 哲也(元日朝国交正常化交渉政府代表)
小此木政夫(慶応義塾大学教授)
宮本 悟(聖学院大学総合研究所准教授)
司会：小田川 興(聖学院大学総合研究所客員教授)
6. 2009年10月23日 カウンセリング研究センター主催シンポジウム「現代人の癒やしと信仰」(新都心ビジネス交流プラザ4階会議室A)【参加者96名】
シンポジスト：
菊地 順(聖学院大学人文学部教授・チャプレン)

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師，臨床パストラルスーパーヴァイザー）

平山 正実（聖学院大学大学院総合研究所教授）

司会：村上 純子（聖学院大学非常勤講師，臨床心理士）

7. 2009年11月28日 「福祉のこころ」研究講演会「福祉の役わり福祉のこころ」（聖学院大学4号館4階4401教室）【参加者65名】

講演1：岩尾 貢（社会福祉法人鶴寿会専務理事・特別養護老人ホームサンライフたきの里施設長）

講演2：平山 正実（聖学院大学大学院人間福祉研究科）

コーディネーター：柏木 昭（聖学院大学大学院人間福祉学科）

8. 2009年12月11日 厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学事業補助金研究事業）による学術シンポジウム「自殺予防と自死遺族支援の現状と課題——自殺未遂者とその家族を理解し，自死遺族を支えるためのシンポジウム——」（東京福音会センター（銀座教会内））【参加者80名】

主催者の挨拶：阿久戸光晴（聖学院大学学長）

シンポジスト：

竹島 正（国立精神神経センター精神保健研究所精神保健計画部長・自殺予防総合対策センター長）

田中 幸子（全国自死遺族連絡会）ほか，遺族の方々

土肥 隆一（民主党 衆議院議員）

指定討論者：

三輪久美子（洗足学園短期大学講師）

岡島 妙英（精神保健福祉士・僧侶）

司会・まとめ：平山 正実（聖学院大学大学院教授・総合研究所カウンセリングセンター長）

9. 2009年12月19日 ポリシーカレッジ総括シンポジウム「都市政策の最前線を探る——現代都市のまちづくりを考える——」（大宮ソニックシティ4階 国際会議室）【参加者84名】

リレー講演：

中邨 章 (明治大学教授)

平 修久 (聖学院大学教授)

木下 博信 (草加市長)

パネルディスカッション：

上記三氏 及び

コーディネーター：佐々木信夫 (聖学院大学総合研究所客員教授，中央大学教授)

10. 2010年1月16日 スピリチュアル講演会「悲嘆とスピリチュアル・ケア」
(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者108名】

講演：平山 正実 (聖学院大学大学院総合研究所教授，カウンセリングセンター長)

司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授)

11. 2010年2月6日 国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と地域安定基盤の構築」(池袋 メトロポリタンプラザ12階第1会議室)【参加者167名】

主催者挨拶：大木 英夫 (聖学院理事長・聖学院大学総合研究所所長)

講演：

小此木 政夫 (慶応義塾大学教授)

ヤン・C・キム (米ジョージワシントン大学名誉教授)

基調報告：

康 仁徳 (韓国元統一相・極東問題研究所理事長 所長)

朱 建永 (東洋学園大学教授・在日華人教授会議長)

コンスタンチン・サルキソフ (山梨学院大学教授)

遠藤 哲也 (元日朝国交正常化交渉担当大使・元原子力安全委員会委員長代理)

報告：

任 成彬 (韓国 長老会神学大学校教授)

水野 孝昭 (朝日新聞論説委員)

コメント：

尹 洪錫 (極東問題研究所責任研究員)

宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター：

小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授・元朝日新聞ソウル支局長）

12. 2010年3月20日 聖学院大学総合研究所主催シンポジウム「第2回自殺予防と自死遺族支援の現状と課題」（大宮ソニックシティ601会議室）【参加者71名】

講演：

斎藤友紀雄（日本のいのちの電話連盟常務理事）

江頭 俊吾（NHK首都圏放送センター記者）

明 英彦（自死遺族とうきょう自助グループ みずべの集い）

宮田 明宏（埼玉県保険医療部疾病対策課精神保健担当・主幹）

平山 正実（聖学院大学大学院総合研究所教授・カウンセリング研究センター長）

13. 2010年4月28日 地方自治シンポジウム「首長と地方議会の新たな関係——地域主権と地方自治のあり方を問う——」（大宮ソニックシティ小ホール）【参加者178名】

主催者挨拶：阿久戸光晴（聖学院大学学長）

基調講演1：橋本大二郎（前高知県知事）

基調講演2：小林 良彰（慶應義塾大学教授）

パネルディスカッション：

パネリスト1：清水 勇人（さいたま市長）

パネリスト2：橋本大二郎（前掲）

パネリスト3：小林 良彰（前掲）

コーディネーター：

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授，中央大学教授）

14. 2010年5月14日 小学校教師のための英語指導法セミナー「こうやって教えよう小学校英語！現場からの提案」（新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）【参加者28名】

講師：藤原真知子（聖学院大学総合研究所特任講師（聖学院小学校講師））

ブライアン・バード（聖学院大学総合研究所特任講師（聖学院小学校講師））

15. 2010年6月11日 スピリチュアル・ケア研究室講演会「医療が癒せない病——生老病死の日本的なスピリチュアル・ケア——」（新都心ビジネス交流プラザ4階会議室C）【参加者105名】

講演：カール・ベッカー（京都大学こころの未来研究センター教授）

司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

16. 2010年7月30日 カウンセリング研究センター主催 聖学院大学牧会サマーセミナー「今日の教会と牧師の役割——牧師のアイデンティティは何か——」（聖学院大学3号館大学院教室）【参加者9名】

講師：

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授・臨床パストラルスーパーバイザー）

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師・臨床パストラルスーパーバイザー）

平山 正実（聖学院大学大学院教授・精神科医）

スタッフ：

藤掛 明（聖学院大学総合研究所准教授・臨床心理士）

村上 純子（聖学院大学総合研究所非常勤講師・臨床心理士）

17. 2010年10月22日 カウンセリング研究会講演会「現代人の孤独を考える——ロンリネスからソリチュードへ——」（新都心ビジネス交流プラザ4階会議室A）【参加者97名】

講演：堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師・臨床パストラルスーパーバイザー）

司会：藤掛 明（聖学院大学総合研究所准教授）

18. 2010年11月19日 スピリチュアル・ケア研究会講演会「一臨床医のナラ

ティブ」(新都心ビジネス交流プラザ4階会議室B)【参加者83名】

講演：西野 洋 (安房地医療センター・メディカルディレクター)

司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授)

19. 2010年11月23日 国際シンポジウム「現代社会におけるポスト合理性の問題——ヴェーバーの遺したもの」(メトロポリタン・プラザ12階会議室)
【参加者84名】

講演：

カール・アッハム (リンツ大学名誉教授)

ヨハネス・ヴァイス (カッセル大学名誉教授)

コメンテータ：

姜 尚中 (東京大学情報学環・学際情報学府教授)

細見 和之 (大阪府立大学人間社会学部教授)

荒川 俊彦 (東京外国語大学, 東洋大学非常勤講師)

コーディネーター：

土方 透 (聖学院大学政治経済学部教授)

通訳：

松戸 行雄 (元ハイデルベルク大学私講師)

20. 2010年11月27日 「福祉のこころ」研究講演会「福祉の役わり福祉のこころ」(聖学院大学4号館4階4401教室)【参加者56名】

挨拶：阿久戸光晴 (聖学院大学学長)

講演：岸川 洋司 (社会福祉法人横須賀基督教社会館 館長)

対談：

岸川 洋司 (前掲)

柏木 昭 (聖学院大学総合研究所名誉教授)

コーディネーター：

柏木 昭 (前掲)

21. 2010年12月18日 ポリシーカレッジ総括シンポジウム「地域主権の国づくり, 地方議員の役割を考える」(大宮ソニックシティビル棟906会議室)
【参加者72名】

リレー講演：

金井 利之（東京大学大学院教授）

穂坂 邦夫（前志木市長，NPO法人地方自立政策研究所理事長）

青山 彰久（読売新聞東京本社編集委員）

パネルディスカッション：

パネリスト1：金井 利之（前掲）

パネリスト2：穂坂 邦夫（前掲）

パネリスト3：青山 彰久（前掲）

コーディネーター：

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授，中央大学教授）

22. 2011年2月26日 日韓現代史研究センター 学術セミナー「北朝鮮問題と日韓米の対応」（女子聖学院クローソンホール）【参加者193名】

講演：

李 鍾元（立教大学副総長）

康 仁徳（聖学院大学総合研究所客員教授，元韓国統一省長官）

司会：

小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

23. 2011年6月3日 カウンセリング研究会講演会「スピリチュアルコミュニケーション——生きる支え——」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者128名】

講演：林 章敏（聖路加国際病院緩和ケア科医長）

司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

24. 2011年7月1日 カウンセリング研究センターシンポジウム「いかに心の世界を学ぶか」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者125名】

シンポジスト：

平山 正実（聖学院大学大学院教授）

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

藤掛 明（聖学院大学大学院准教授）

司会：

堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 臨床パストラルスーパーバイザー, 聖学院大学総合研究所カウンセラー)

25. 2011年9月2日 牧会サマーセミナー「傷付いた魂の癒しを求めて」(聖学院大学1号館コモンルーム)【参加者14名】

講演:

堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 臨床パストラルスーパーバイザー)

藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授)

コーディネーター:

窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授)

スタッフ:

菊地 順 (聖学院大学チャプレン)

平山 正実 (聖学院大学大学院教授)

村上 純子 (聖学院大学総合研究所カウンセラー)

26. 2011年10月28日 カウンセリング研究センターシンポジウム「東日本大震災を神学的にどのように受け止めるか——信仰と教会の再建のために——」(女子聖学院クロウソンホール)【参加者143名】

講演:

柳谷 明 (山形県六日町教会隠退牧師)

大木 英夫 (聖学院大学大学院長)

小友 聡 (東京神学大学教授)

平山 正実 (聖学院大学大学院教授)

コーディネーター:

窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授)

27. 2011年10月29日 学術セミナー「朝鮮半島情勢と日本の対応」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者50名】

講演:

康 仁徳 (聖学院大学総合研究所特命教授, 元韓国統一省長官)

鈴木 光男 (外務省大臣官房総務課警備対策室長, (前同省第三

国際情報官室情報分析官))

コメント：

宮本 悟 (聖学院大学准教授)

コーディネーター：

小田川 興 (聖学院大学総合研究所特命教授)

28. 2011年11月18日 カウンセリング研究センター講演会「希望・尊厳・スピリチュアル——緩和ケアからのアプローチ——」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者66名】

講演：清水 哲郎 (東京大学大学院教授)

司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授)

29. 2011年11月18日 小学校英語指導法セミナー「「こうやって教えよう小学校英語」現場からの提案——すぐに使えるアクティビティーを紹介します」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者11名】

講師：藤原真知子 (聖学院大学総合研究所特任講師, 聖学院小学校・幼稚園講師, 世田谷区立用賀小学校アドバイザー)

講師：ブライアン・バード (聖学院大学総合研究所特任講師, 聖学院小学校・幼稚園講師, 世田谷区立用賀小学校アドバイザー)

30. 2011年12月3日 「福祉のこころ」研究講演会「福祉の役わり福祉のこころ」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者49名】

講演：石川 到覚 (大正大学大学院人間学研究課教授)

コーディネーター：柏木 昭 (聖学院大学総合研究所名誉教授)

31. 2011年12月16日 カウンセリング研究センター講演会「子どもの生と死——周産期医療から見えること——」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者28名】

講演：船戸 正久 (大阪発達総合療育センター重症心身障害児施設フェニックス園長)

司会：平山 正実 (聖学院大学総合研究所・大学院教授)

32. 2012年1月28日 カウンセリング研究センターシンポジウム「緩和ケアをどのように進めるか」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者54名】

シンポジスト：

河 正子 (NPO法人緩和ケアサポートグループ代表・看護師)
竹内 公一 (元自治医科大学講師, 真言宗智山派僧侶)
黒島 偉作 (津久井赤十字病院・内科医)

司会：

平山 正実 (聖学院大学総合研究所・大学院教授)

33. 2012年2月10日 カウンセリングセンター講演会「東日本大震災からの再生に向けて (Part2)」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者71名】

挨拶： 阿久戸光晴 (聖学院大学理事長・学長)

講師紹介：平山 正実 (聖学院大学大学院教授)

講演：

尾形 妙子 (医療法人 社団仙石病院看護部長)
大西奈保子 (東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科准教授)

34. 2012年2月25日 国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題への地域協力体制：課題と展望」(女子聖学院クローソンホール)【参加者182名】

講演：

李 鍾元 (立教大学副総長)
ヤン・C・キム (米ジョージワシントン大学名誉教授)

基調報告：

康 仁徳 (極東問題研究所理事長)
朱 建栄 (東洋学園大学教授)

報告：

遠藤 哲也 (元日朝正常化交渉担当大使)
三村 光弘 (環日本海経済研究所研究主任)

渡辺 勉（朝日新聞政治部長，元ソウル・ワシントン特派員）

コメント：

宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター：

小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授，元朝日新聞編集委員）

(2) 共同研究

総合研究所では「共同研究規程」に基づき、研究代表者から申請された「共同研究計画」に沿って、学内外教員、研究者がそれぞれの専門分野での研究成果を持ち寄って「共同研究」を進めている。現在、次の16の共同研究プロジェクトが活動しており、大学、法人本部（駒込）、新都心ビジネス交流プラザ（北与野）、大宮ソニックシティなどを会場として研究会を開催している。

2009年度から2011年度までに下記の共同研究プロジェクトが活動し、現在も定期的に研究が進められている。なお、研究組織は2011年度のものである。また研究者の肩書きは発表時のものである。

1 英語一貫教育の研究 (Two-way Bilingual Immersion Programs)

(研究代表：デイビッド・バーガー 聖学院大学教授)

本研究は、英語一貫教育の理論的、実際的研究をし、各学校にその成果を提案することを目的とする。対象となる学校の範囲は全法人とし、英語の一貫教育を総合的に目指す。理論的、実際的研究の対象をTwo-way Bilingual Immersion Programsに特化し、研究の成果を小学校における英語教育の改善に適用し、これを徐々に上級学年の英語教育改善に適用していく。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
R・D・バーガー	聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授	[研究代表]
角田 秀明	聖学院中学校高等学校・教諭	[副代表（駒込）]
小倉 義明	聖学院・院長	[全法人英語教育]
E・D・オズバーン	聖学院大学人文学部欧米文化学科・准教授	[国際センター]
M・サベット	聖学院大学人文学部欧米文化学科・准教授	[大学英語教育]

東 仁美	聖学院大学人文学部欧米文化学科・准教授 [児童英語]
D・サザデン	聖学院大学総合研究所・准教授 [TOEFL]
B・バード	聖学院大学総合研究所・講師 [小学校・児童英語]
藤原真知子	聖学院大学総合研究所・講師 [小学校・児童英語]
J・ナイティングール	聖学院大学総合研究所・講師 [小学校・児童英語]
大野 碧	女子聖学院中学校高等学校・校長 [研究員]
高橋 一也	聖学院中学校高等学校・教諭 [研究員]
村瀬 聰子	聖学院小学校・校長 [研究員]
佐藤 慎	聖学院小学校・教頭 [研究員]
新井 裕子	聖学院小学校・教諭 [研究員]
島田 尚子	聖学院幼稚園・教諭 [研究員]
国府田郁絵	聖学院みどり幼稚園・教諭 [研究員]

2009年度

- (1) 2009年5月11日 An Overview of Japanese Students' Lives in America
【参加者13名】
M・サベット (聖学院大学准教授)
- (2) 2009年7月13日 「小学校から大学までの英語教育——新学習指導要領が示唆するもの」 “English Education from Elementary School to University: Implications from MEXT's New Course of Study.” 【参加者21名】
吉田 研作 (上智大学教授)
- (3) 2009年10月19日 「国際理解教育をめざした英語授業における絵本の活用」 【参加者18名】
坂本 ひとみ (東洋学園大学教授)
- (4) 2009年12月14日 “The Role of Japanese Language Support in EFL Education” 【参加者14名】
Michael Critchley (城西国際大学助教)
- (5) 2010年2月8日 「Integrating the SLEP Test into the ECA Curriculum SLEP テストのECAカリキュラムへの統合化の試み」 【参加者14名】
Kent Hill (聖学院大学特任講師), Mehran Sabet (聖学

院大学准教授)

英語指導法セミナー

- (1) 2009年5月15日 第1回英語指導法セミナー【参加者60名】
Brian Byrd (聖学院大学総合研究所特任講師),
藤原真知子 (聖学院大学総合研究所特任講師)
- (2) 2009年10月24日 第2回英語指導法セミナー【参加者38名】
Brian Byrd (聖学院大学総合研究所特任講師),
藤原真知子 (聖学院大学総合研究所特任講師)

英語ワークショップ

2010年3月16-17日 “Shared Power, Peer Feedback, and Portfolio Review:
Potential Paths for Inspiring Resistant Language
Learners.”【参加者16日:20名, 17日21名】
Raena Hanson (Minneapolis Community and Technical
College 教授)

2 グローバリゼーションの研究

(研究代表: 田中 浩 聖学院大学大学院・総合研究所教授)

グローバリゼーション研究は第一期, 第二期を通じて年間行われてきた。第一期は主としてグローバリゼーションの概念規定をめぐる研究が行われたが, 第二期以後は人文・社会諸科学におけるグローバリゼーションの研究者を招いて研究会を行った。

グローバリゼーションという用語が盛んになったのは1989年の「冷戦終結宣言」, 91年の「ソ連崩壊」によって, それまでの国際政治・経済・社会における「冷戦思考」に代わる社会科学用語の「キー概念」として登場した。

したがって, グローバリゼーション研究はまず国際経済をめぐる発展したが, この分析概念は国際政治, 民族問題などの研究分野にも広がり, それはEU・社会保障・福祉国家・環境問題などの研究分野に広がっていった。このことは, これまでのような各専門分野の研究枠にとどまっていたはもはや現代

政治・経済・社会をめぐる問題をトータルに捉えることはできないということ
を意味する。したがって第三期以降は「研究のグローバル化」に対応した社会
科学分野における相関関係を研究する必要があると考えている。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
田中 浩	聖学院大学大学院総合研究所教授	[政治思想史・研究代表]
大木 英夫	聖学院大学総合研究所・所長	[キリスト教思想]
阿久戸光晴	聖学院大学学長・教授	[アメリカ社会論]
有賀 貞	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科・教授	[アメリカ史]
千葉 眞	国際キリスト教大学・教授	[政治思想史]
田中 豊治	聖学院大学総合研究所・客員教授	[イギリス社会論]
大澤 麦	首都大学東京都市教養学部・教授	[政治思想]
康 仁徳	聖学院大学総合研究所・客員教授	[北朝鮮政策]
富沢 賢治	聖学院大学大学院政治政策学研究所・教授	[NPO 経済論]
古屋 安雄	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授	[アメリカ宗教史]
岡本 和彦	東京成徳大学人文学部准教授	[政治思想]
佐藤 義明	成蹊大学法学部准教授	[国際法]
松尾 秀哉	聖学院大学政治経済学部政治経済学科・准教授	[ヨーロッパ政治論]
佐藤 貴史	聖学院大学総合研究所・助教	[政治思想 (ユダヤ教)]
鶴沼 裕子	聖学院大学大学院・総合研究所日本研究室長	[日本倫理思想]
清水 正之	聖学院大学人文学部日本文化学科教授	[日本近代思想]
竹内 整一	東京大学大学院人文科学系教授・総研客員教授	[日本思想]

2009年度

- (1) 2009年4月17日 「宗教とリベラル・デモクラシーの可能性——イスラーム・スカーフ問題を素材に」【参加者15名】
阪口正二郎（一橋大学大学院教授）

- (2) 2009年6月5日 「東欧における体制転換の20年を振り返る——チェコ共和国を事例として」【参加者14名】
林 忠行（北海道大学）
- (3) 2009年10月5日 「レオ・シュトラウスと新自由主義」【参加者20名】
飯島 昇蔵（早稲田大学政治経済学術院教授）
- (4) 2010年3月1日 「徳富蘇峰と平民主義」【参加者21名】
和田 守（大東文化大学法学部教授）
- (5) 2010年3月8日 「我が国の国際戦略——対中戦略，対アフリカ政策，拉致問題」【参加者20名】
木俣 佳丈（民主党経済産業委員長）

3 聖学院大学都市経営研究

（研究代表：佐々木信夫 聖学院大学大学院客員教授）

都市合併や政令指定都市指定など，昨今の都市政策に関して，自治体との共同研究により，あるべき都市の姿とそこにいたる政策課題を研究した。

2009年度は，とりわけ第2期地方分権改革の動向と事業の仕分けに焦点を当ててみた。国と地方，自治体と住民の関係で，補助金ひとつ取っても，長い間に形成されたムダ，ゆがみが出ている。

国と地方，府県と市町村の二重，三重行政のムダ，縦割り行政のムダ，官業の非効率に伴うムダ，これをどう排除するか，事業の仕分けはその作業である。出先機関や外郭団体，行政の代行や補完を企図する委託事業についても，時代に合うよう見直す必要がある。

もとより，考えなければならないのは，こうした改革というのは，何も「減量化」「削減」のみを意味するわけではない。もちろん減量化は必要だが，それ以上に大切なのは，時代の要請に合うよう公共の役割をしっかりと見直すことである。行政の質を高め，費用対効果を開示し，民間サービスと同様に，市民が公共サービスを選択し高い顧客満足度を感じ得る行政に変えること，それが改革である。

それには，これまでのような大きな政府か，小さな政府かの論争では意味がない。そうではなくて，これからは「賢い政府」になれるかどうか，その視点が

が改革の起点にならなければならない。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
佐々木信夫	聖学院大学総合研究所	[研究代表]
平 修久	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科	[副代表]
大木 英夫	聖学院大学総合研究所	[研究員]
大藪 俊志	聖学院大学政治経済学部政治経済学科	[研究員]
橘 裕子	埼玉県都市整備部住宅課	[研究員]
稲葉 尚子	埼玉県総務部	[研究員]
北村 芳之	埼玉県環境部	[研究員]
田辺 成弘	さいたま市都市総務課	[研究員]
中野 明彦	さいたま市都市総務課	[研究員]
池田 英樹	埼玉県企画財政部地域政策課	[研究員]
安田 直弘	桶川市市民生活部自治文化課	[研究員]
島田 正弘	桶川市政策審議室	[研究員]
松崎 洋孝	桶川市政策審議室	[研究員]
内田 雅幸	上尾市総合政策課	[研究員]
持木 克之	埼玉県環境部水環境課	[研究員]
小熊 孝一	春日部市役所人事課	[研究員]
石田 勝	埼玉県総務部統計課	[研究員]
田中 芳樹	アルク設計事務所	[研究員]
西尾 真治	さいたま市行政改革推進本部	[研究員]
中村 卓	草加市市長付特命理事	[研究員]
林 正隆	横浜市都市経営局, 現: 草加市市長付地方主権推進担当付	[研究員]
野口 泰三	鴻巣市環境産業部資源循環課	[研究員]
利根川永司	NPO法人ヒューマンネットライフ工房	[研究員]
高荷 博	熊谷市教育委員会学校教育課	[研究員]

2009年度

2009年4月17日(金) 17:30~20:30【参加者165名】

第6回都市経営シンポジウム「新たな国のかたちを問う——道州制と大都市圏のあり方」

基調講演1「国を元気にする『国のかたち』——地域主権型の道州制のすめ」江口 克彦 (PHP総合研究所社長)

基調講演2「大都市圏と地方との格差——道州制で格差解消は可能か？」土井 丈朗 (慶応義塾大学教授)

パネル・ディスカッション：

上田 清司 (埼玉県知事)

江口 克彦

土井 丈朗

コーディネータ：

佐々木信夫 (聖学院大学総合研究所客員教授)

第1回都市経営研究会

2009年6月17日 (水) 17:30～20:00

新都心交流プラザ聖学院教室【参加者18名】

「最近の都市政策 都市計画の新動向」

川村 雅人 (三菱総合研究所主席研究員)

第2回都市経営研究会

2009年10月7日 (水) 17:30～20:00

新都心交流プラザ聖学院教室【参加者9名】

「まちづくりと集客戦略——その最前線を探る」

小松 史郎 (東京都市大学都市生活学部教授)

第3回都市経営研究会

2009年12月10日 (木) 17:30～20:00

大宮ソニックシティ501会議室【参加者16名】

「まちづくりと地方分権改革——第1次～第4次勧告の徹底分析」

橘田 誠 (横浜市都市経営局)

第4回都市経営研究会

2010年2月4日 (木) 17:30～20:00

新都心交流プラザ聖学院教室【参加者16名】

「政府の事業仕分け——全体像を括る」

中村 卓（草加市特命理事）

2010年度

地方自治研究に名称変更

従来のまちづくりなどソフト面での研究に加え、地域主権の国づくりなど民主党政権のもとで地方制度も大きく変わりそうな動きにある。地方自治制度、都市制度、議会制度、公務員制度など、地方自治の枠組みを形づくっている「制度面」、さらに自治体政策の研究にも踏み込んで見てきた。

今年度は、総務省の動きも捉えながら、「地方自治制度（法）の改革をめぐる諸論点」についてゲスト講師を交えながら、4回の研究会を開き探っていった。

都市の経営全般について、自治体職員と大学の共同研究スタイルで進めることによる研究提言の社会的インパクト、社会的評価が大であることはもとより、地方自治体の人材育成にも大きく貢献することとなった。

第1回

2010年7月7日（水）17：30～20：00

新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室【参加者18名】

報告者：中村 卓（明治大学教授）

テーマ「地域主権のあり方——諸外国との比較の視点を交えて」

第2回

2010年11月11日（木）17：30～20：00

新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室【参加者17名】

報告者：谷 隆徳（日本経済新聞編集委員）

テーマ「地域主権のゆくえ——政権交代に伴う改革動向と税財政改革」

第3回

2010年12月16日（木）17：30～20：00

新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室【参加者15名】

報告者：塚田 博康（都市・情報研究室）

テーマ「大都市の公共交通政策——地下鉄のあり方を中心に」

第4回

2011年2月7日（月）17：30～20：00

新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室【参加者16名】

報告者：辻山 幸宣（地方自治総合研究所長，元地方自治研究所研究員・中央大学公共政策研究科客員教授）

テーマ「府県レベルの広域連合の可能性——関西広域連合の動きなど」

4 グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究

（研究代表：鵜沼裕子 日本研究室長）

日本を相対化し，客観化する視座を，「グローバリゼーション」の文脈におき，21世紀における日本の位置づけ，そこにおける日本人の精神的課題を明らかにする。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
大木 英夫	聖学院大学総合研究所長	[神学]
鵜沼 裕子	聖学院大学総合研究所特任教授	日本研究室長 [日本思想史]
清水 正之	聖学院大学人文学部日本文化学科教授	[日本思想・国学思想]
黒木 章	聖学院大学人文学部日本文化学科長	[日本文学（近代）]
標 宮子	聖学院大学人文学部日本文化学科教授	[日本文学（中世）]
清水 均	聖学院大学人文学部日本文化学科教授	[日本文学（近代詩歌）]
竹内 整一	東京大学人文学系大学院教授	
黒住 真	東京大学大学院総合文化研究科教授	

2009年度

2010年1月26日 特別研究会「日本の思想的伝統とキリスト教」【32名】
黒住 真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

5 日韓現代史研究

(研究代表：康 仁徳 聖学院大学客員教授，小田川興 聖学院大学客員教授)

東アジア情勢は中国の台頭，六カ国協議の開催など変化を見せるなかで，北朝鮮の核・ミサイル問題や拉致問題が緊急課題となっている。その解決は米国の対北朝鮮政策に大きく左右されるが，地域の安全保障を共有すべき日本，韓国，中国の連携はきわめて重要である。しかし，日韓中の三国関係は経済と文化の面では順調だが，靖国参拝問題や歴史教科書などをめぐって政治対話は停滞し，日米関係への悪影響も懸念される。

流動化する世界情勢の下で日韓中が懸案解決へ担うべき役割と，米国とともに東北アジア共同体構築に向けて取り組むための方策を研究する。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
康 仁徳	聖学院総合研究所客員教授	[代表・朝鮮半島の共産主義運動，北朝鮮の改革可能性]
小田川 興	聖学院大学総合研究所客員教授	[代表・東アジア平和構築，韓国メディア分析，植民地被害者の調査]
池 明観	元翰林大学校日本学研究所長，総合研究所客員教授	[朝鮮半島の歴史，韓国教会史・思想史]
木宮 正史	東京大学大学院総合文化研究科助教授	[米ソ軍政と日本占領の比較研究，韓国社会史]
朱 建栄	東洋学園大学教授	[中国の朝鮮半島政策]
宮本 悟	聖学院大学総合研究所准教授	[北朝鮮軍事政策]

2009年度

(1) 2009年10月17日(土)

学術セミナー「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題の展望」(聖学院本部2階集会室)【参加者57名】

講演「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題の展望」

康 仁徳（聖学院大学総合研究所客員教授，元統一部長官）

討論：小此木政夫（慶応義塾大学法学部教授）

遠藤 哲也（元日朝国交正常化交渉政府代表）

宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

司会：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

(2) 2010年2月6日（土）

国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と地域安定基盤の構築」（メトロポリタンプラザ会議室）【参加者167名】

講演：

「朝鮮半島統一と日本の役割」小此木政夫（慶応義塾大学法学部教授）

「米国の対北朝鮮核政策とアジアの安全保障」ヤン・C・キム（ジョージ・ワシントン大学名誉教授）

基調報告：

「南北関係と北朝鮮の政治・経済の現状」

康 仁徳（聖学院大学総合研究所客員教授）

「中国の21世紀【大外交】と北朝鮮問題への対応」

朱 建栄（東洋学園大学人文学部教授）

「ロシアの対北朝鮮政策の要点」

コンスタンチン・サルキソフ（山梨学院大学教授）

「日朝関係と国交正常化問題の現状と展望」

遠藤 哲也（元日朝国交正常化交渉政府代表）

報告：

「民間レベルにおける北朝鮮との交流」

任 成彬（長老会神学大学校教授）

「北朝鮮核問題の課題——米朝関係を中心に」

水野 孝昭（朝日新聞社論説委員）

コメント：

「2010年の北朝鮮の新年共同社説と北朝鮮問題の行方」

尹 洪錫（極東問題研究所責任研究員）

「北朝鮮の軍事力」

宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

パネル・ディスカッション

コーディネータ：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）
後援：朝日新聞社，助成：国際交流基金

2010年度

(1) 国際シンポジウム

「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と日韓の役割」

実施日時：2010年9月17日

会場：ソウル・韓国プレスセンター記者会見場

主催：聖学院大学総合研究所，韓国・極東問題研究所，韓半島平和研究院

後援：韓国統一省

助成：東京倶楽部

参加者：200名

プログラム

開会挨拶 玄 仁澤（韓国統一省長官）

大木 英夫（聖学院理事長，聖学院大学総合研究所所長 [代読]）

第1部（講演）

「東アジアと朝鮮半島平和のための韓日協力」

尹 永寛（韓半島平和研究院院長，韓国・元外交通商省長官）

「分断体制と平和構築：韓国哨戒艦沈没事件を契機に」

小此木政夫（慶応大学教授）

「米朝関係：哨戒艦『天安』沈没事件と米国の対応を中心に」

ヤン・C・キム（米ジョージワシントン大学名誉教授）

「南北朝鮮関係の現況と韓国の対北朝鮮政策の推進方向」

金 千植（韓国統一省統一政策室長）

コーディネーター：小田川 興（聖学院大学客員教授，元朝日新聞ソウル支局長）

第2部（報告とコメント）

報告：

「北朝鮮の貨幣改革と住民生活レベルの変化」

洪 性国（韓国・極東問題研究所北韓研究室長）

「中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響」

趙 明哲（韓国・対外経済政策研究院国際開発協力センター所長）

「日朝関係と国交正常化問題の現状と展望」

遠藤 哲也（元日朝国交正常化交渉日本政府代表）

コメント：

「韓国民間団体の対北朝鮮援助に関する現状と分析」

任 成彬（韓国・長老会神学大学教授）

「日本の対北朝鮮支援の現状と課題」

宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター：康 仁徳（韓国極東問題研究所所長，元統一省長官）

第3部（討論）

参加者全員

コーディネーター：尹 永寛（韓半島平和研究院院長）

総括：康 仁徳

(2) 学術セミナー「北朝鮮問題と日韓米の対応」

実施日時：2011年2月26日

会場：女子聖学院クローソンホール

主催：聖学院大学総合研究所

参加者：193名

プログラム

主催者挨拶 大木 英夫（聖学院大学総合研究所長）

講演1 「オバマ政権の東アジア政策と米朝関係」

李 鍾元（立教大学副総長）

講演2 「北朝鮮の三代世襲が南北関係に及ぼす影響」

康 仁徳（聖学院大学総合研究所客員教授，元統一部長官）

質疑応答

司会：小田川 興（聖学院大学総合研究所客員教授）

2011年度

(1) 2011年10月29日

学術セミナー「朝鮮半島情勢と日本の対応」

（聖学院大学大学院「北東アジア国際関係研究」の授業の一環として開催し

た。)

講演1 康 仁徳 (聖学院大学総合研究所特命教授, 極東問題研究所所長)

講演2 鈴木 光男 (外務省大臣官房警備対策室長)

コメント: 宮本 悟 (聖学院大学総合研究所准教授)

コーディネーター: 小田川 興 (聖学院大学総合研究所特命教授)

(2) 2012年2月25日

国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題への地域協力体制: 課題と展望」

日時: 2012年2月25日 (土) 13時~18時

会場: 女子聖学院クローソンホール (東京・駒込)

講演:

「東アジアの安定と日本の役割」

李 鍾元 (立教大学教授)

「米国の北朝鮮政策と地域安全保障」

ヤン・C・キム (米ジョージワシントン大学名誉教授)

基調報告:

「北朝鮮の現状と南北関係」 康 仁徳 (極東問題研究所理事長)

「中国の北朝鮮政策」 朱 建栄 (東洋学園大学教授)

報告:

「日朝関係と国交正常化の展望」

遠藤 哲也 (元日朝国交正常化交渉担当大使)

「北朝鮮経済, 中朝経済協力, 朝ロ経済関係」

三村 光弘 (環日本海経済研究所研究主任)

「北朝鮮問題と日米韓連携」

渡辺 勉 (朝日新聞国際報道部長)

コメント:

「北朝鮮軍の現状」

宮本 悟 (聖学院大学総合研究所准教授)

コーディネーター: 小田川 興 (聖学院大学総合研究所特命教授)

6 日本における宗教指導者のメンタル・ヘルスに関する精神医学的研究

(研究代表：平山正実 聖学院大学大学院教授)

日本におけるキリスト教宗教指導者やそれに準ずる者、すなわち神学生・牧師・牧師夫人の意識調査を行い、それを精神医学的に分析を行った。宗教活動にたずさわる者特有の課題や問題点を浮き彫りにした。「牧会心理研究会」にてキリスト教牧師の信徒や地域住民に対する援助活動(牧会)における諸現象につき、精神医学的見地から分析・研究を行った。シンポジウムや講演会にて、日本のキリスト教界における心の問題にまつわる各種テーマをとありあげ、神学的、精神医学的、心理学的な考察を行った。これまで、日本において実証的研究がほとんどなされてこなかったキリスト教指導者のメンタル・ヘルスについて分析し、宗教と精神医学との関係について考察できた。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
平山 正実	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[代表]
藤掛 明	聖学院大学総合研究所准教授	[代表補助]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[研究員]
賀来 周一	キリスト教カウンセリング・センター相談所長	[研究員]
村上 純子	聖学院大学グリーンケアルーム・カウンセラー	[研究員]
竹渕 香織	聖学院大学総合研究所助教	[研究員]
坂野 慧	吉浦和福音自由教会牧師，基督神学校講師	[研究員]
根田 祥一	百万人の福音誌編集長	[研究員]
吉岡 光人	日本キリスト教団吉祥寺教会牧師，キリスト教カウンセリング・センター理事	[研究員]

2009年度

牧会心理研究会

2009年4月10日 藤掛 明(聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者7名】

2010年2月26日 藤掛 明(聖学院大学大学院准教授・カウンセリン

グ研究室)【参加者7名】

シンポジウム

2009年10月23日(金) 14:00~16:30 新都心ビジネス交流プラザ4階会議室A

テーマ「現代人の癒しと信仰」【参加者96名】

シンポジスト:

堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 臨床パストラルスーパーバイザー)

菊池 順 (聖学院大学人文学部教授, チャプレン)

司会: 村上 純子 (聖学院大学非常勤講師, 臨床心理士)

2010年度

牧会心理研究会第一グループ

2010年5月6日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者7名】

2010年9月30日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者6名】

牧会心理研究会第二グループ

2010年6月11日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者8名】

2011年2月18日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者8名】

シンポジウム・講演会

2010年10月22日「現代人の孤独を考える」

堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 臨床パトラルスーパーバイザー)

2011年度

牧会心理研究会第一グループ

2011年6月2日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者6名】

2011年9月15日 藤掛 明 (聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室)【参加者5名】

2012年2月2日 藤掛 明（聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室）【参加者7名】

牧会心理研究会第二グループ

2011年6月24日 藤掛 明（聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室）【参加者7名】

2011年10月7日 藤掛 明（聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室）【参加者8名】

2012年2月17日 藤掛 明（聖学院大学大学院准教授・カウンセリング研究室）【参加者8名】

牧会心理研究会

2011年10月21日 「心理療法における愛と癒やし」

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師）【参加者35名】

シンポジウム・講演会

2011年7月1日「いかに心の世界を学ぶか」【参加者125名】

平山 正実（聖学院大学大学院教授）

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

藤掛 明（聖学院大学大学院准教授）

7 〈児童〉における「総合人間学」の試み（第3期）

（研究代表：村山順吉 聖学院大学人間福祉学部児童学科長）

- 1) 人間学基礎研究，心理学的側面からのアプローチ
- 2) 文化論的側面からのアプローチ
- 3) 保育学的側面からのアプローチ
- 4) 福祉学的側面からのアプローチ
- 5) キリスト教教育からのアプローチ

人間基礎研究を起点として〈児童〉に対する5つの視点からの研究的アプローチを行い，それらの関係交錯を経て，〈児童〉における「総合人間学」につき，検討する。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
村山 順吉	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授・学科長	[代表]
田澤 薫	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[補助]
阿久戸光晴	聖学院大学学長	[研究員]
鈴木 明	大東文化大学スポーツ・健康科学部教授	[研究員]
森下みさ子	白百合女子大学文学部児童文化学科准教授	[研究員]
山田麻有美	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
松本 祐子	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
喜田 敬	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
金谷 京子	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
石津 靖大	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
永井理恵子	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
相川 徳孝	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
藤田 明	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
小川 洋	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
石川由美子	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
船田 信昭	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
佐藤 千瀬	聖学院大学人間福祉学部児童学科専任講師	[研究員]
寺崎 恵子	聖学院大学人間福祉学部児童学科助教	[研究員]
佐藤 逸子	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
深澤悠紀雄	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
小池 茂子	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]

2010年度

- (1) 2010年4月1日 「幼保一元化問題を子どもの「領分」保障から考える」
【参加者15名】
田澤 薫（聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授）
- (2) 2010年6月30日 「子どもの島——ルソーのイメージ」【参加者17名】
寺崎 恵子（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教）
- (3) 2010年12月15日 「差異に生きる＝共に生きる：子どもとおとな」【参加

者24名】

土方 透（聖学院大学経済学部長）

- (4) 2011年1月7日 「C・ドビュッシー作曲「子供の領分」をめぐって」【参加者14名】

村山 順吉（聖学院大学人間福祉学部児童学科長）

- (5) 2011年2月23日 「興について」【参加者19名】

石津 靖大（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

2011年度

- (1) 2011年4月6日 「魔法にかけられたこどもたち」【参加者19名】

松本 祐子（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

- (2) 2011年6月22日 「子どもの言い訳にあらわれるもの」【参加者15名】

金谷 京子（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

- (3) 2011年9月28日 「児童学で読む ディック・ブルーナの世界」【参加者11名】

永井恵理子（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

- (4) 2012年1月10日 「協働する保育を支える保育実践研究法」【参加者12名】

入江 礼子（共立女子大学家政学部児童学科教授）

- (5) 2012年2月15日 「DBAE——コンテンポラリーアートと保育造形」【参加者11名】

喜田 敬（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

8 ヨーロッパ統合の理念と実態——日本の対EU政策に向けて——

（研究代表：大木雅夫 聖学院大学大学院教授）

EU欧州連合は、戦後世界の平和と繁栄を目指して創設された国際連合に並び立つ巨大な組織でありながら、一部には連邦形成を目指すほどの独特な超国家的組織である。それゆえEU研究には、伝統的な国際法の研究・教育では足りず、わが国における数少ないEU法研究者を組織化しなければ、EU認識において大小の諸外国に後れをとること必定である。聖学院大学総合研究所にお

けるEU研究会は、既に7年にわたって活動し、その成果の一部は『多層的ヨーロッパ統合と法』として公刊されたが、EUそのものが統合への力と瓦解への力のせめぎあいの間に発展し続けている限り、本学の研究組織も維持することに意味がある。

統合力と瓦解力の測定には、ヨーロッパ統合の理念と実態に関する歴史的研究が必要であり、また、EUの目指すデモクラシーと加盟27か国それぞれのスタンスの相違を比較的に認識するのであれば、憲法条約の挫折や新たなリスボン条約の帰趨すら判断できないであろう。ここに歴史的・比較的方法によるEUの客観的認識を基礎にして、日本の対EU政策の方向付けに寄与したいと思う。従来この研究会が追求した課題に一部修正を加えて、この研究を継続する。

- (1) ローマ帝国以来ヨーロッパを舞台として遂行された統合の理念と実態の歴史的・比較的検討。
- (2) ヨーロッパ統合に向けての各加盟国のスタンス及び周辺国ロシアやトルコのEU観。
- (3) 累次にわたるヨーロッパ統合関係諸条約における修正の原因としての「民主主義」認識の問題。
- (4) リスボン条約締結の経緯と現況。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
大木 雅夫	聖学院大学大学院政治政策学研究所長・教授	[研究代表, 比較法]
廣渡 清吾	東京大学社会科学研究所教授, 日本学術会議第1部長	[ドイツの法と政治]
栗城 寿夫	聖学院大学総合研究所特任教授	[ドイツ憲法と比較憲法]
矢島 基美	上智大学法学部教授・副学長	[憲法と地球環境法]
須網 隆夫	早稲田大学法学部教授	[EU経済法]
郡司 篤晃	聖学院大学大学院人間福祉学研究所教授	[ヨーロッパ医療福祉制度]
松尾 秀哉	聖学院大学政治経済学部政治経済学科准教授	[ヨーロッパの政治 (ベルギー)]

大藤 紀子	獨協大学法学部准教授 [比較憲法とEU法]
有賀 貞	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授 [アメリカ連邦国家の形成]
安部 圭介	成蹊大学法学部准教授 [憲法論]
佐藤 義明	成蹊大学法学部准教授 [国際法]
小森田明夫	東京大学社会科学研究所教授・所長 [ポーランド法とロシア]

2009年度

- (1) 2009年11月16日 「体制転換20年のポーランド」【参加者10名】
小森田秋夫（東京大学社会科学研究所教授）
- (2) 2009年12月14日 「権限付与の原則——ドイツ憲法裁判所リスボン条約判決を題材にして」【参加者11名】
中西優美子（専修大学法学部助教授）

2010年度は「グローバリゼーションの研究」と統合し、「現代世界研究」として活動。

現代世界研究

(研究代表：大木雅夫 聖学院大学大学院教授，田中 浩 聖学院大学大学院教授)

「冷戦終始」後20年が経過し，世界・日本の政治・経済・社会・思想構造は大きく変化した。「オバマ政権」「民主党政権」の誕生などもその実例のひとつである。現代世界は現代それ自体を研究しなければならないが，同時に近代の始まりから現代までの歴史・社会・思想の変化・発展を研究する必要がある。本研究は，現代世界政治・日本政治，EU研究，ナショナリズムとデモクラシー，環境・ジェンダー問題，現代思想などについて研究する。

なお，当研究会は2009年度「ヨーロッパ統合の理念と実態——日本の対EU政策に向けて」を母体として「グローバリゼーションの研究」を統合し，継続するものである。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
大木 雅夫	聖学院大学大学院政治政策学研究所長・教授	[研究代表]
田中 浩	聖学院大学大学院教授	[研究代表]
笹倉 英夫	早稲田大学比較法研究所教授	
松本 礼二	早稲田大学教授	
岩谷 十郎	慶応義塾大学教授	

- (1) 2010年5月17日 「法解釈の構造——〈論理的思考と人間味〉および比附を中心に」【参加者19名】
笹倉 秀夫（早稲田大学比較法研究所教授）
- (2) 2010年6月21日 「日本における個人と個人主義——トクヴィルを手がかりに」【参加者22名】
松本 礼二（早稲田大学教授）
- (3) 2011年2月25日 「裁判所風景論——法文化の日本的コンテクスト」【参加者12名】
岩谷 十郎（慶応義塾大学教授）

2011年度は聖学院大学総合研究所「グローバリゼーション文化総合分野」の研究会として活動。

- (1) 2011年12月12日 「民主主義の諸相とEUの現況」【参加者17名】
大木 雅夫（聖学院大学大学院教授）

*この研究会は科学研究費補助金「EUの総合的研究／4つの視点から——ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義」の予算にて開催した。

9 ピューリタニズム研究

（研究代表：松谷好明 聖学院大学総合研究所特任教授）

16, 17世紀イギリス・ピューリタニズムの歴史とその本質をできる限り一次資料にそって解明するとともに、現代の世界と教会に対するその意義を明ら

かにする。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
松谷 好明	聖学院大学総合研究所教授・特任	[研究代表]
大木 英夫	聖学院大学総合研究所所長	[研究員]
古屋 安雄	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科教授	[研究員]
田中 浩	聖学院大学大学院総合研究所教授・特任	[研究員]
大澤 麦	首都大学東京 教授	[研究員]
佐野 正子	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科准教授	[研究員]
今関 恒夫	同志社大学文学部教授	[研究員]
高 萬松	聖学院大学総合研究所助教	[研究員]
青木 道彦	川村学園女子大学非常勤講師	[研究員]
森田美千代	聖学院大学総合研究所教授	[研究員]
梅津 順一	青山学院大学教授	[研究員]
泉谷周三郎	横浜国立大学名誉教授	[研究員]
大久保正健	杉野服飾大学教授	[研究員]

2009年度

- (1) 2009年6月30日 「ウィリアム・ブラッドショウについて」【参加者11名】
青木 道彦 (川村学院大学名誉教授)
- (2) 2009年2月23日 「ピューリタンと祈祷書問題」【参加者15名】
松谷 好明 (聖学院大学総合研究所教授)

10 臨床死生学研究

(研究代表：平山正実 聖学院大学大学院教授)

死生学の学問領域は、広範囲に及ぶ。しかし、われわれが研究課題とする死

生学は、それを解明するにあたって、現実の人間生活の中で生起する死と生に焦点を絞った臨床死生学的方法を採用する。とくに臨床死生学の分野の中でも、われわれが関心を持つのは、臨床死生学の現場における悲しめる人々への援助活動の連携である。つまりカウンセリングを中心として、医師、看護師、カウンセラーなどがなすさまざまな援助は、どのように連携してなされるべきかというテーマで研究を進めた。現実の人間生活の中で生起する死と生に焦点を絞った臨床死生学的方法を採用した。臨床死生学の現場で働く、医師、看護師、カウンセラーなどさまざまな立場の方々を講師として研究会を開催した。悲しめる人々へのカウンセリングを中心とした援助は、どのように連携してなされるべきかというテーマのもと、研究活動を進めた。この現場のケーススタディを中心としているところに本研究の特色がある。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
平山 正実	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[代表]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[副代表]
藤掛 明	聖学院大学総合研究所准教授	[代表補助]
村上 純子	聖学院大学グリーンケア・ルームカウンセラー	[研究員]
高橋 克樹	日本聖書神学校総務部長・豊島岡教会牧師	[研究員]
小高 康正	長野大学教授	[研究員]
吹抜 悠子	東京外国語大学非常勤講師	[研究員]
斉藤 弘子	フリージャーナリスト	[研究員]
宗村 弥生	東京女子医大看護学部教員	[研究員]
海野志ん子	福島生と死を考える会会長	[研究員]
安達富美子	東京歯科大学市川総合病院看護部長	[研究員]
門林 道子	昭和薬科大学非常勤講師	[研究員]
大西奈保子	東北福祉大学健康科学部非常勤講師	[研究員]
村上 典子	神戸日赤病院心療内科部長	[研究員]

2009年度

- (1) 2009年6月13日 「子供における生と死」【参加者28名】
田中久美子（あいち小児保健医療総合センター）

- (2) 2009年6月27日 「ガン患者の心と身体の痛み」【参加者33名】
白土 辰子（東洋英和女学院大学）
- (3) 2009年9月26日 「自死遺族とグリーフケア」【参加者17名】
小山 達也（東京女子医大）
- (4) 2009年10月14日 「死生学教育について教育現場からの発言」【参加者25名】
山崎 浩司（聖学院大学）
- (5) 2009年11月14日 「子供の病と死への向き合い方」【参加者21名】
三輪久美子（洗足学園短大）
- (6) 2010年2月27日 「心悩む人の生死に関する家族」【参加者15名】
平山 正実（聖学院大学大学院）

シンポジウム・講演会

- (1) 2009年12月11日（金）18：00～20：30

「自殺予防と自死遺族支援にどう取り組むか——自殺未遂者とその家族を理解し、自死遺族を支えるために」東京福音会センター（銀座教会内）【参加者80名】

シンポジスト：

竹島 正（国立精神保健センター精神保健計画部長・自殺予防総合対策センター長）

土肥 隆一（民主党衆議院議員）

田中 幸子（全国自死遺族連絡会）

指定討論者：

三輪久美子（洗足学園短期大学講師）

岡島 妙英（精神保健福祉士・僧侶）

斎藤 幸光（司法書士・行政書士）

司会：平山 正実（聖学院大学大学院教授・総合研究所カウンセリングセンター長）

- (2) 2010年3月20日（土）14：00～16：30

第2回「自殺予防と自死遺族支援の現状と課題——自殺未遂者とその家族、及び自死遺族をどのように支援するか」大宮ソニックスシティ601会議室【参加者71名】

講演：

齋藤友紀雄（日本のいのちの電話連盟常務理事）

江頭 俊吾（NHK首都圏放送センター記者）

明 英彦（自死遺族とうきょう自助グループ みずべの会）

宮田 明宏（埼玉県保健医療部疾病対策課精神保健担当）

平山 正実（聖学院大学大学院総合研究所教授，カウンセリング研究センター長）

2010年度

2010年4月16日 「高倉徳太郎の生と死」【参加者27名】

鶴沼 裕子（聖学院大学大学院教授）

2011年1月29日 「末期患者に対する交流分析の応用」【参加者30名】

白井 幸子（ルーテル学院大学大学院教授）

2011年度

(1) 2011年7月9日 「キリスト教の死生観」【参加者46名】

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師）

シンポジウム・講演会

2011年10月28日（金）13：30～17：30

「東日本大震災を神学的にどのように受け止めるか」女子聖学院クローソンホール【参加者143名】

講師：

柳谷 明（山形県六日町教会隠退牧師）

大木 英夫（聖学院大学大学院長）

小友 聡（東京神学大学教授）

平山 正実（聖学院大学大学院教授）

2011年12月16日（土）14：00～16：30

「子供の生と死——周産期医療から見えること」聖学院大学ヴェリタス館教授会室【参加者28名】

講師：船戸 正久（大阪発達総合療育センター重症心身障害児施設フェニックス園長）

2012年1月28日（土）14：00～16：30

「緩和ケアをどのように進めるか」 聖学院大学ヴェリタス館教授会室【参加者54名】

講師：

河 正子 (NPO法人 緩和ケアサポートグループ代表・看護師)

黒鳥 偉作 (津久井赤十字病院・内科医)

竹内 公一 (元自治医科大学講師・真言宗智山派僧侶)

11 ケア政策に関する基礎的ならびに国際比較研究

(研究代表：郡司篤晃 聖学院大学大学院教授)

ケアの質と効率を確保することに成功してきた国はない。ケアには技術的側面と同時にその本質には利他的な行為であり、経済的な制度化が困難であるためである。しかし、社会変動の結果、ケアの外部化・社会化は大きな流れとして既に進行しており、多くの資源を必要とすることになっている。

前世紀の末に出現した新自由主義は大胆な市場化を志向したが、現在は社会民主主義的ないわゆる準市場改革が志向されている。即ち、競争の力をかりつつもインセンティブを設計して目的を達成しようという構想である。

しかし、準市場は必ずしも純化された概念ではなく、また現実には多くの問題が存在する。また、人間理解に関する仮定から自由ではありえない。

従って、準市場とは何かを明確にする必要がある。また、インセンティブの設計はその結果から絶えず評価されるべきものであるが、そのためには一国内の研究では不十分である。

そこで、契約・組織・実験経済学などの新たな経済学研究者と、日本を始めとしてイギリス、フランス、ドイツ、アメリカの研究者によって、新たなケアの政策学を構想することを目的として、研究会を開催したい。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
郡司 篤晃	聖学院大学大学院	[総括]
牛津 信忠	聖学院大学大学院	[福祉基礎理論]
府川 哲夫	社会保障・人口問題研究所	[フランス担当]

泉田 信行	社会保障・人口問題研究所 [経済学]
福田 敬	東京大学医学系研究科臨床疫学・経済学 [経済学]
大橋 弘	東京大学経済学部 [経済学]
大森 正博	お茶の水女子大学大学院人間創生科学研究科 [経済学]
佐藤 雅代	北海道大学公共政策学大学院 [公共政策]
武村 真治	国立保健医療科学院 [イギリスの福祉政策]
田城 孝雄	順天堂大学公衆衛生学 [アメリカ担当]
藤森 克彦	みずほ総研社会保障 藤森クラスター [イギリス担当]

2009年度

- (1) 2009年12月12日 「アメリカ・オバマ政権の医療改革：対立の構図と今後の展望」【参加者34名】
天野 拓 (熊本県立大学准教授)
- (2) 2009年3月20日 「医療・福祉制度の準市場改革のゆくえ：イギリス、デンマーク、スウェーデンを中心に」【参加者11名】
郡司 篤晃 (聖学院大学大学院教授)

12 「福祉の心」とは——人間福祉学を考える

(研究代表：中村磐男 聖学院大学大学院特任教授)

本学、人間福祉学部人間福祉学科は、学科創立理念の中に、「福祉の心と専門知識に裏打ちされた精神ある専門人」を謳っている。「福祉の心」は「人間福祉総論」や「キリスト教人間学」などの科目を通して伝えられているが、「福祉の心」とは何かについて明確な文章化は、未だなされていない。本学人間福祉学部および大学院人間福祉学研究科で掲げる「福祉の心」とは何かについて、講演会を開催した。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
中村 磐男	聖学院大学大学院人間福祉学研究科特任教授	[代表・プログラム委員]

柏木 昭 聖学院大学総合研究所名誉教授 [代表・プログラム委員]
牛津 信忠 聖学院大学人間福祉学部長 [プログラム委員]
助川 征雄 聖学院大学人間福祉学科長 [プログラム委員]
相川 章子 聖学院大学人間福祉学部准教授 [プログラム委員]

2009年度

(1) 2009年11月28日(土) 13:30～16:00

～福祉の役わり 福祉のこころ～

「認知症高齢者介護の現場から——ソーシャルワークの視点に立って——」

【参加者65名】

岩尾 貢 (社会福祉法人鶴寿会専務理事, 特別擁護老人ホームサンライ
フたきの里施設長)

「精神科医療におけるチームワーク, 現状と課題」

平山 正実 (聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授)

コーディネーター: 柏木 昭

後援: 埼玉県社会福祉協議会

2010年度

(1) 2010年11月24日(土) 13:30～15:45

～福祉の役わり 福祉のこころ～

「住民の力とコミュニティ形成」【参加者56名】

岸川 洋治 (社会福祉法人横須賀基督教社会館 館長)

「対談」岸川 洋治・柏木 昭

コーディネーター: 柏木 昭

後援: 埼玉県社会福祉協議会

2011年度

(1) 2011年12月3日(土) 14:00～16:15

～福祉の役わり 福祉のこころ～

「宗教と福祉——仏教福祉の立場から——」【参加者49名】

石川 到覚 (大正大学大学院人間学研究科教授)

コーディネーター: 柏木 昭

13 スピリチュアリティ（靈性）の構造分析と病む人へのケア学研究

（研究代表：窪寺俊之 聖学院大学大学院教授）

近年我が国でもスピリチュアルケアの必要性に気が始め研究が開始された。スピリチュアルケアの実践に向けて、スピリチュアルケアの「定義」が今、大きな課題になっている。今回の研究の主な課題はスピリチュアリティ（靈性）を歴史的・文化的・臨床的に考察しながら、臨床の現場で使えるスピリチュアルケアを創出することである。スピリチュアリティの構造分析をすることで、臨床に使えるスピリチュアルケアの方法が明らかになった。

病む人へのスピリチュアルケアの学際的研究を行った。当該研究には理論家と実践家の二種類の研究者が参加。スピリチュアリティ（靈性）について歴史的・文化的研究者が2名、実践家が4名加わった。両研究者が対話を繰り返しながら、スピリチュアリティの本質を構造的に明確にした。

スピリチュアリティ（靈性）が構造的に分析されることで、今後の終末期医療におけるスピリチュアルケアの具体化に確実に貢献することができた。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[代表]
金子 晴勇	聖学院大学大学院・総合研究所客員教授	[副代表]
片柳 榮一	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[研究員]
平山 正美	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[研究員]
林 章敏	聖路加国際病院緩和ケア科医師	[研究員]
伊藤 高章	桃山学院大学教授	[研究員]
高木 慶子	元セント・トーマス大学学長	[研究員]

2009年度

- (1) 2009年10月22日 「現代において魂とは」（聖学院大学一号館セミナー室）【参加者25名】

片柳 榮一（聖学院大学大学院）

シンポジウム・講演会

2009年5月22日 「スピリチュアリティの現在とその意味」（北与野新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）【参加者136名】

島藪 進（東京大学）

2010年1月16日 「悲嘆とスピリチュアルケア」（聖学院大学教授会室）【参加者108名】

平山 正実（聖学院大学大学院）

2010年度

2010年10月14日 「ヨーロッパ思想と霊性」（聖学院大学一号館セミナー室）【参加者21名】

金子 晴勇（聖学院大学大学院・総合研究所客員教授）

シンポジウム・講演会

2010年6月11日 「医療が癒せない病——生老病死の日本的なスピリチュアル・ケア——」（北与野新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）【105名】

カール・ベッカー（京都大学こころの未来研究センター教授）

2011年1月16日 「一臨床医のナラティブ」（北与野新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）【83名】

西野 洋（安房地域医療センターメディカルディレクター）

2011年度

2011年10月13日 「ケアする者のスピリチュアリティ」【参加者35名】

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師）

シンポジウム・講演会

2011年6月3日 「スピリチュアル・コミュニケーション ～生きる支え～」【参加者128名】

林 章敏（聖路加国際病院緩和ケア科）

2011年11月18日 希望・尊厳・スピリチュアル」【参加者66名】

清水 哲郎（東京大学大学院教授）

14 憲法研究

大日本帝国憲法から日本国憲法へ——憲法史の観点から

（研究代表：大木英夫 聖学院大学大学院院長・教授，栗城壽夫 聖学院大学大学院・総合研究所教授）

第一年度（2009年度）は、近代憲法の出発点となり、公理ともなったフランス憲法の影響を受けつつ成立したドイツ憲法をモデルとして制定された大日本帝国憲法について、ドイツ憲法をモデルとして選択した経緯、ドイツにおける憲法調査の状況、憲法制定へのドイツ人の関与、憲法の解釈・運用にたいするドイツ憲法学の影響、ドイツ憲法をモデルとしたことの功罪などを検討し、この検討を踏まえて、日本国憲法がアメリカ憲法の強い影響を受けて成立したことの持つ意義を明らかにした。

第二年度（2010年度）は、第二次大戦後、ドイツ憲法に代わって日本の憲法に強い影響を与えているアメリカ憲法について、それを貫く基本思想、基本原理をその発展の相に即し、また個別分野におけるその現われに即して解明し、アメリカ憲法を“準拠法”としたことの意義を明らかにした。

第三年度（2011年度）は、日本国憲法と日本帝国憲法、諸外国の憲法を比較憲法の観点から検討した。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
栗城 壽夫	聖学院大学大学院・総合研究所教授・特任	[研究代表・ドイツ憲法論]
大木 英夫	聖学院大学大学院院長・教授	[研究代表・キリスト教倫理学]
大木 雅夫	聖学院大学大学院・教授	[比較法]
田中 浩	聖学院大学大学院・教授	[政治思想]
阿久戸光晴	聖学院大学・学長	[アメリカ憲法]
森川 輝一	名城大学・准教授	[契約思想]

2009年度

- (1) 2009年4月20日 「近代社会像にとってのフランス憲法の定式性」【参加者27名】
樋口 陽一（東大名誉教授）
- (2) 2009年5月11日 「ドイツ憲法の一般性と特殊性」【参加者21名】
栗城 壽夫（聖学院大学総合研究所特任教授）
- (3) 2009年6月15日 「準抛国ドイツの選択と脱却」【参加者25名】
瀧井 一博（国際日本文化研究センター）
- (4) 2009年10月19日 「井上毅と明治憲法」【参加者22名】
大石 眞（京都大学教授）
- (5) 2009年11月9日 「明治憲法制定へのドイツ人の寄与」【参加者17名】
堅田 剛（獨協大学教授）
- (6) 2009年12月7日 「ドイツ憲法と明治憲法」【参加者19名】
石村 修（専修大学教授）
- (7) 2010年1月18日 「明治憲法と明治国制——明治40年の憲法改革」【参加者18名】
瀧井 一博（前出）
- (8) 2010年2月8日 「ドイツ憲法学の日本憲法学への影響」【参加者19名】
國分 典子（筑波大学教授）

2010年度

- (1) 2010年4月19日 「日本憲法学における統治権の権利主体としての『国家』論」【参加者27名】
杉原 泰雄（一橋大学名誉教授）
- (2) 2010年5月10日 「制度と人権——デモクラシーの本質」【参加者31名】
田中 浩（聖学院大学大学院教授）
- (3) 2010年6月14日 「ハンナ・アーレントのアメリカ憲法理解——その契約概念を中心にして」【参加者25名】
森川 輝一（名城大学准教授）
- (4) 2010年7月5日 「アメリカ憲法における表現の自由」【参加者20名】

毛利 透（京都大学教授）

- (5) 2010年10月4日 「アメリカ憲法における人間の尊厳」【参加者19名】
青柳 幸一（筑波大学教授）
- (6) 2010年11月15日 「人権理念の成立とピューリタニズム」【参加者30名】
大木 英夫（聖学院大学大学院教授）
- (7) 2010年12月6日 「アメリカ憲法における政教分離原則について」【参加者21名】
安西 文雄（九州大学教授）
- (8) 2010年12月13日 「アメリカにおける違憲審査制」【参加者21名】
阪口正二郎（一橋大学教授）
- (9) 2011年1月17日 「アメリカ憲法とハリントン『オシアナ共和国』——明治憲法・ヴァイマル憲法とのかかわりで」【参加者22名】
田中 浩（前出）
- (10) 2011年2月21日 「アメリカ憲法と日本国憲法」【参加者19名】
佐藤 幸治（京都大学名誉教授）
- (11) 2011年3月7日 「アメリカ憲法と日本国憲法」【参加者32名】
奥平 康弘（東京大学名誉教授）

2011年度

- (1) 2011年6月13日 「ドイツ基本法（憲法）の成立と展開」【参加者17名】
栗城 壽夫（前出）
- (2) 2011年7月4日 「ドイツの基本法と基本権」【参加者28名】
初宿 正典（京都大学教授）
- (3) 2011年11月7日 「日本国憲法と行政改革・司法改革」【参加者21名】
佐藤 幸治（京都大学名誉教授）
- (4) 2011年12月5日 「日本国憲法の歴史的 position」【参加者23名】
水島 朝穂（早稲田大学教授）
- (5) 2012年2月6日 「日本国憲法の憲法史的・比較憲法的意義」【参加者17名】
高見 勝利（上智大学教授）

15 ラインホールド・ニーバー研究

(研究代表：大木英夫 聖学院大学大学院院長・総合研究所所長，高橋義文 聖学院大学大学院・総合研究所教授)

ラインホールド・ニーバーを，神学的，政治学的，社会学的に包括的に研究し，その特質と普遍的・現代的意義，とりわけ現代および将来の日本に対する意義を明らかにする。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
大木 英夫	聖学院大学大学院院長・総合研究所所長・ニーバー研究センター長	[研究代表]
武田 清子	国際基督教大学名誉教授・名誉ニーバー研究センター長	[研究代表(名誉)]
古屋 安雄	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[研究顧問]
高橋 義文	聖学院大学大学院・総合研究所教授	[研究実務担当]
東方 敬信	青山学院大学教授	[客員研究員]
西谷 幸介	青山学院大学教授	[客員研究員]
安酸 敏真	北海学園大学教授	[客員研究員]
松本 周	聖学院大学総合研究所助教	[研究員]
ブライアン・バード	聖学院大学総合研究所講師	[研究員]

2009年度の研究報告

- (1) 2009年10月3日 「ラインホールド・ニーバーとピューリタニズム」
高橋 義文(聖学院大学大学院教授)【33名】
- (2) 2009年12月5日 「『光の子と闇の子』をめぐって」
武田 清子(国際基督教大学名誉教授，名誉ニーバー研究センター長)【41名】
- (3) 2010年1月30日 「ニーバーの思想の特質——特にバルトとの対比において」
大木 英夫(聖学院大学大学院教授)【49名】

2010年度の研究報告

- (1) 2010年5月15日 「ニーバー2とエルンスト・トレルチの影」
安酸 敏眞（北海学園大学教授）【32名】
- (2) 2010年7月10日 「ニーバーと宗教多元性」
西谷 幸介（青山学院大学教授）【27名】
- (3) 2010年11月6日 「ニーバー兄弟の経済倫理——ヴェーバー理論に関連して」
東方 敬信（青山学院大学教授）【21名】
- (4) 2011年2月5日 「キリスト教現実主義をめぐって」
古屋 安雄【38名】

2011年度の研究報告

- (1) 2011年6月6日 「ニーバーの愛と正義の弁証法的理解，終末論，世界共同体論」
千葉 眞（国際基督教大学教授）【35名】
- (2) 2011年10月3日 「秘義と意味」
高橋 義文（聖学院大学大学院教授）【27名】

16 日韓キリスト教会交流（関係）史に関する日韓共同研究

（研究代表：康 仁徳 聖学院大学総合研究所特命教授，松本 周 聖学院大学総合研究所助教）

本研究の目的は、19世紀末に始まった日韓キリスト教会の関係が、1910年からの日韓併合期を経たことで、戦後の日韓関係にどのように影響を与えたのかを日韓キリスト教会の対立と協力の側面から日韓双方の研究者によって検証し、それが現在の日韓関係においていかに位置づけられるかを明らかにすることにある。その際に、日韓キリスト教会関係史を日韓併合期以前、併合期、独立後の3つの時期に区分し、併合期とその前後で日韓キリスト教会関係が変化した部分を検討し、それが戦後の日韓関係にいかに関与を及ぼしたかを考察する。長老会神学大学校との協定に基づく共同研究である。

〈研究組織〉

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
康 仁徳	聖学院大学総合研究所特命教授, 元大韓民国統一省長官	[韓国教会の折衝・聞き取り調査]
松本 周	聖学院大学総合研究所助教	[日本基督教団における韓国教会との関わり]
高 萬松	聖学院大学総合研究所助教	[植民地治下の韓国教会の研究]
宮本 悟	聖学院大学総合研究所准教授	[南北教会の協力関係]
任 成彬	韓国長老会神学大学教授	[韓国における北朝鮮認識, 日韓教会交流史]
林 熙國	韓国長老会神学大学教授	[韓国教会における日韓問題]
李 致萬	韓国長老会神学大学研究教授	[1910-1945年担当, 日韓キリスト教史]
松谷 基和	早稲田大学アジア研究機構研究助手	[植民地時代の資料分析]

2010年度の研究報告

本研究は、聖学院大学と長老会神学大学校による3年間にわたる日韓の共同研究である。研究は、資料収集（2010年度から2011年度前半）、資料分析（2011年度後半から2012年度前半）、成果の公開（2012年度後半）の段階に分けて進める。

- (1) 2010年9月15日 ソウルでの研究資料の調査（永楽教会ほか）と研究打合せ（コリアナホテル）。

長老会神学大学校：林 熙國, 李 致萬

聖学院大学：康 仁徳, 高 萬松, 宮本 悟, 山本俊明

- (2) 第1回研究会 2011年2月1日 15:00～18:00 聖学院本部新館2階集会室【参加者37名】

挨拶：任 成彬, 林 熙國（韓国長老会神学大学校）

大木 英夫（聖学院大学総合研究所）

康 仁徳（極東問題研究所）

報告1：「1910年までの日本側から見た日韓キリスト教会交流」

原 誠 (同志社大学神学部教授)

コメント：松本 周 (聖学院大学総合研究所助教)

報告2：「1910年から1945年までの日本側から見た日韓キリスト教会交流」

松谷 基和 (早稲田大学アジア研究機構研究助手)

コメント：高 萬松 (聖学院大学総合研究所助教)

報告3：「韓国側から見た韓日キリスト教会交流」

李 致萬 (長老会神学大学校研究教授)

コメント：宮本 悟 (聖学院大学総合研究所准教授)

- (3) 2011年2月1日に研究計画についての協議を行なった。18:30～20:00 (メトロポリタンホテル)

長老会神学大学校：任 成彬, 林 熙國, 李 致萬

聖学院大学：康 仁徳, 高 萬松, 宮本 悟, 松本 周, 山本俊明

- ①次回、長老会神学大学校で開催する。日程は2011年12月2, 3日とする。
②主題は「三・一運動期の社会と教会の関係について」としてさらに検討する。
③2012年度に聖学院で開催される研究会はシンポジウムとして、主題は1945年以降の両国デモクラシーと教会、また21世紀北東アジアと教会の役割についてなどを検討する。

- (4) 2011年2月5日に日韓現代史研究センター会議を開催した。

康 仁徳, 小田川興, 宮本 悟, 高 萬松, 松本 周, 山本俊明

- ①本研究プロジェクトの代表を松本周助教とする。
②2011年度長老会神学大学校で開催することになった第2回研究会の日程は、12月2日, 3日とする (その後、長老会神学大学校から日程変更の依頼があり、11月25日, 26日と変更)。
③主題は、「三・一運動期の社会と教会の関係について」として、主題について、また講演者について、両大学で協議する。

2011年度の研究報告

- (1) 2011年6月9日 「韓国の神学について——モルトマンとの関わりから」
【24名】洛 雲海 (長老会神学大学校講師)
- (2) 2011年11月25日 「三・一独立運動と民族自決」会場：長老会神学大学校Luce Center (ソウル・韓国) 【70名】

開会式

挨拶：ユウ・ヘリョン

大木 英夫（聖学院大学総合研究所長 [代読]）

講演1「三・一運動の準備過程とキリスト者の役割」

李 致萬（長老会神学大学校研究教授）

コメント：松谷 好朗（聖学院大学総合研究所特任教授）

講演2「1910年代の日韓教会とリベラル・デモクラシー」

松本 周（聖学院大学総合研究所助教）

コメント：パク・ヨンクォン（長老会神学大学校講師）

(3) 「聖学院大学総合研究所紀要」目次
(A5判並製, 年3回発行, 45号～53号)

紀要45号 (512頁)

巻頭言 情報とは何か

——インフォメーションと「アウトフォーメーション」——

阿久戸光晴

グローバリゼーション下, 日本が直面する食料・農業問題

暉峻 衆三

トマス・ヒル・グリーン「イギリス革命講義(全四講)

——クロムウェルの共和国時代——(四)

田中 浩・佐野正子 訳

なぜ日本にキリスト教教育が必要なのか

森田美千代

エラスムス『対話集』敬虔な午餐会

金子晴勇 訳・注・解説

教会の公共性——社会保障制度改革を通して

郡司 篤晃

黒崎幸吉のアドルフ・フォン・ハルナック論

——『新世』に掲載された『全集』未収録の論稿をめぐって—— 深井 智朗

エルンスト・トレルチの個人蔵書——調査報告

ザビーネ・ヴァーグナー 編著／深井智朗 編訳

ラインホルド・ニーバーの教会論

高橋 義文

A・J・ヘッセルの生涯およびその中心的神学思想の概観

——講演「ヘッセルの思想について」の要旨と若干の敷衍——

森泉 弘次

欧州統合の停滞と『欧州合衆国』構想

——ベルギーの欧州統合政策(二)

松尾 秀哉

同盟関係が南北朝鮮の全方位外交と核開発に与えた影響

——〈見捨てられ〉と〈巻き込まれ〉の視点から——

宮本 悟

トマス・グッドウィンにおける聖霊論

高 萬松

熊野義孝と大木英夫の教会観

——〈国民的自由教会形成〉をめぐって

松本 周

大木英夫神学における〈人格〉と〈人権〉

——ピューリタニズム倫理解と関連で
運動する法——パラドクス存在論・法・社会運動

松本 周

ミヒャエル・ブレッヒャー／名部圭一 訳

解 説

土方 透

紀要46号 (458頁)

巻頭言 今日における平等の課題

——ロールズの『正義論』との関連で—— 阿久戸光晴

一九世紀ドイツ憲法の普遍性と特殊性 栗城 壽夫

ラインホルド・ニーバーとピューリタニズム 高橋 義文

内村鑑三における信仰と倫理

——戦争と平和の問題をめぐって—— 鷗沼 裕子

アール・ヌーボーの時代の神学

——1919年以前のバルトの神学の性格についての考察—— 深井 智朗

福祉国家と国民統合

——社会保障制度による所得移転は国家の解体を進めるか—— 松尾 秀哉

1970年代における朝鮮民主主義人民共和国の国連外交

——安全保障政策や対米外交政策との関係—— 宮本 悟

CSRと情報倫理 竹井 潔

韓国教会の受難と抵抗

——日韓併合から「解放」の間—— 高 萬松

M・L・キングの神観念と人格主義思想

——博士論文を中心として—— 菊地 順

シンボリック直観と再現前化作用

——カッシーラーの『シンボル形式の哲学』第3巻の研究——

齊藤 伸

森有正の転機 小林 雅博

Conceptualizing Campus as Community Through Classroom Podcasting

David Gann

〔史料解題〕

William Bradshaw, “English Puritanism” (1605)

青木 道彦

紀要47号 (570頁)

- 巻頭言 なぜ日本にキリスト教大学が必要なのか？ 阿久戸光晴
- 準抛国ドイツの選択と脱却
——明治14年の政変から伊藤博文の憲法調査まで—— 瀧井 一博
- ニーバーの思惟の特質
ラインホルド・ニーバー『アメリカ史のアイロニー』をめぐって 大木 英夫
- チェコ政党政治における新自由主義
——ヴァーツラフ・クラウスと市民民主党 林 忠行
- ピューリタンと祈祷書問題 松谷 好明
- なぜ日本にキリスト教哲学が必要なのか 茂 牧人
- なぜ日本に聖書学が必要か 左近 豊
- なぜ日本に文化の神学が必要なのか
——内村鑑三の文明論を中心に—— 柳田 洋夫
- なぜ日本に教会が必要なのか？ 藤原 淳賀
- 小学校における国際理解教育のテーマ別英語学習 坂本ひとみ
- 〈合法性〉と〈状況適合的擬似合法性〉の間
——「パーペン・クーデター」事件から「国事裁判」へ—— 高橋 愛子
- 韓景職とその時代
——「正義」と「平和」を中心として—— 高 萬松
- 時間の比較政治学——合意形成のジレンマ (1) 松尾 秀哉
- 〈資料と解説〉
〔金日成〕未公刊演説
『人民軍党四期四次全員会議における金日成結論演説』
(1969年1月6日から14日) 宮本 悟訳・解説
- プロテスタント神学者トレルチとユダヤ人哲学者コーエンの論争
——方法論から文化総合の問題へ—— 佐藤 貴史

日本的経営の不自由

——経営家族主義からの脱却を阻むもの——
フランス革命前夜のルーヴル美術館計画（1751—1789年）

金子 毅

田中 佳

Peace, Justice and Reconciliation

through the Protection of Human Rights: A Preliminary Note

Toshiaki Komatsuzaki

日本のプロテスタント牧師の疲弊研究

——牧師のストレス類型とその臨床像の検討
2008年度 大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

藤掛 明・衣笠詩子

紀要48号（404頁）

巻頭言 二つの本質の間に立たされて

——理性的なるものと現実的なるもの、
変えられることと変えられないこと——

阿久戸光晴

日本憲法学と「統治権の権利主体としての国家」論
明治憲法を起草したドイツ人

杉原 泰雄

——ヘルマン・ロessler研究の系譜——

堅田 剛

プロイセン憲法と明治憲法

——二つの憲法の関係——

石村 修

『光の子と闇の子』について

武田 清子

ニーバー²と「エルンスト・トレルチの影」

安酸 敏眞

ハワーワスのニーバー批判一考

高橋 義文

権限付与の原則

——ドイツ連邦憲法裁判所の

EUリスボン条約判決を中心素材にして——

中西優美子

中学英語教科書における異文化コミュニケーション能力育成の課題

——執筆者への聞き取り調査に基づく——

印田佐知子

韓国の電子商取引発展における軍事技術の民間移転事業

——CALISの民間移転に関する金鐵煥の役割——

宮本 悟

韓国教会の成長と危機 想起の都市、過去の召還 ——W・ベンヤミンのメシア的時間論の思想的射程——	高 萬松 佐藤 貴史
カッシーラーにおける心身論とシンボル機能 ——『〈精神〉と〈生命〉』と題する二論文の研究——	齊藤 伸
19世紀後半から20世紀初頭のドイツにおける旧約聖書の位置付け ——教会史家アドルフ・フォン・ハルナックを中心に——	津田 謙治

紀要49号 (274頁)

巻頭言 日本を真に元気にする施策とは ——大器晩成時代を迎えて——	阿久戸光晴
アメリカ憲法における表現の自由の歴史的展開 ——厳格審査基準の先駆者としてのフランクファータ裁判官	毛利 透
ドイツ憲法学から日本憲法学への影響 ——人格説と進化論の機能	國分 典子
徳富蘇峰と民主主義	和田 守
ラインホルド・ニーバーと宗教多元性 ——現代においてキリスト教の絶対性をどう理解するか	西谷 幸介
1900年前後のアドルフ・フォン・ハルナックとマックス・ヴェーバー	深井 智朗
祈り・志・靈性 ——植村正久の理解をめぐって	松本 周
人々の関係を結びつける失われた鎖 ——19世紀英国の女性社会改良家の活動を手がかりに——	木村 美里
「……私たちが長い間会えないでいることを大変寂しく思っています」 ——エーリヒ・フロム＝パウル・ティリッヒ往復書簡 及び関連書簡の解説と翻訳	竹淵香織・深井智朗
主権とEUの問題	オリヴィエ・カミィ／徳永貴志訳
La Font de Saint-Yenne: sa vie et son œuvre (1688-1771)	Kei TANAKA

紀要50号 (384頁)

- 巻頭言 大震災を問う 阿久戸 光晴
- アレントの「活動」概念の解明に向けて
——『人間の条件』第24—27節の注解 森川 輝一
- アメリカ合衆国憲法と人間の尊厳 青 柳 幸 一
- キリスト教社会秩序協会とニーバーの「神学的倫理学」 東方 敬信
- ヨーロッパ思想と靈性 金子 晴勇
- 高倉徳太郎の生と死をめぐって
一信徒としての立場から 鶴沼 裕子
- 文化とキリスト—— sacramental approach
アラン・M・サゲート／藤原淳賀 訳
- ベルリンの日本人と東京のドイツ人
——日本におけるアドルフ・ハルナック 深井 智朗
- ローザ・パークスとマーティン・ルーサー・キング・ジュニア
——モンゴメリー・バス・ボイコット運動以後—— 森田美千代
- レオ・ベック「ハルナックの講義『キリスト教の本質』批判(1901)」
津田謙治 訳
- 時間の比較政治学——合意形成のジレンマ(2) 松尾 秀哉
- アレントにおける寛容と義務 森分 大輔
- 殉教を免れた李源永牧師の歩み
——『学者・牧会者鳳卿李源永研究』第五章の翻訳
林 熙國 著／高 萬松 訳
- 朝鮮民主主義人民共和国への国際人道援助
——援助と経済状況の変遷—— 宮本 悟
- 2009年度 大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

紀要50号別冊 (212頁)

日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号

はじめに

康 仁徳／小田川興

日・韓国際学術シンポジウム

「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と日韓の役割」

プログラム

開会の辞

康 仁徳

開会の挨拶

玄 仁澤

開会の言葉

グローバリゼーションとキリスト教的連帯

——なぜいまや日韓関係の再構築が必要であるのか——

大木 英夫

第1部 講演

東アジアと朝鮮半島の平和のための日韓協力

尹 永寛

分断体制と平和構築

——韓国哨戒艦沈没事件を手掛かりに

小此木政夫

米朝関係

——天安艦とアメリカの対応を中心に

ヤン・C・キム

南北関係の現状及び対北政策の推進方向

金 千植

第2部 報告と討論

北朝鮮の貨幣改革と住民の生活水準の変化

洪 性国

中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響

趙 明哲

日朝関係と国交正常化問題の現状と展望

遠藤 哲也

民間レベルの対北朝鮮人道支援についての現況と分析

任 成彬

日本の対北朝鮮支援の現状と課題

宮本 悟

第3部 討論

資料集

第1部 講演

東アジアと朝鮮半島の平和のための日韓協力

尹 永寛

分断体制と平和構築

— 韓国哨戒艦沈没事件を手掛かりに
米朝関係

小此木政夫

— 天安艦とアメリカの対応を中心に
南北関係の現状及び対北政策の推進方向

ヤン・C・キム
金 千植

第2部 報告と討論

北朝鮮の貨幣改革と住民の生活水準の変化
中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響
日朝関係と国交正常化問題の現状と展望

洪 性国
趙 明哲
遠藤 哲也

資料 日朝平壤宣言

第3部 討論

民間レベルの対北朝鮮人道支援についての現況と分析
日本の対北朝鮮支援の現状と課題

任 成彬
宮本 悟

シンポジウム・セミナー・講演会の記録

聖学院大学総合研究所日韓現代史研究センター

シンポジウム・セミナー・講演会の記録 1997—2010

紀要51号 (290頁)

巻頭言 新しい日本社会の再建

— 二度目の敗戦体験としての大震災を正面から受け止めて —

阿久戸光晴

セイヤーの司法の自己抑制論再考

阪口正二郎

ニーバーの「キリスト教現実主義」をめぐって

古屋 安雄

韓国の神学について

— ユルゲン・モルトマンとの関わりから —

洛 雲海

戦後の韓国長老派教会と日本基督教団の交流の事情

— 1967年宣教協約に至るまでの

日韓教会交流（関係）の歴史研究（第1回）

高 萬松

北東アジアの平和に対するキリスト教の役割

宮本 悟

自死遺族のメンタルヘルス等の諸問題について

——実態調査の結果から——

平山 正実

朝鮮民主主義人民共和国による中東諸国への軍事協力

——1970年代における武器援助から武器貿易への転換——

宮本 悟

現代社会は画一的で自由のない鉄の檻なのか。

アメリカ政治文化の今日の内的ダイナミズムを定義するのに

マックス・ヴェーバーを用いる。

ステイーヴン・コールバーグ／森川剛光 訳

異文化間の誤解と外交政策への政治文化の影響。

アメリカ合衆国とドイツ

ステイーヴン・コールバーグ／森川剛光 訳

ミュンヘンで発見された「オットー・バウムガルテンによる

ヴェーバー夫妻の結婚式説教」をめぐって

フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ

深井智朗+津田謙治+小柳敦史 訳

Exploring Effective Ways to Teach a Multi-Level Movie Course

Miyoko Maass

紀要52号 (350頁)

巻頭言 現代における時間の質

阿久戸光晴

アメリカ憲法と日本国憲法

——私にとってのアメリカ憲法 (学) ——

佐藤 幸治

ドイツ基本法 (憲法) の成立と展開

栗城 壽夫

ニーバーの愛と正義の弁証法的理解および世界共同体論

千葉 眞

秘義と意味

ラインホルド・ニーバー／高橋義文・訳

1970年代韓国教会の社会参与に関する神学の考察

——1970年代前半、日韓教会交流に関わった長老教派を中心に

高 萬松

ヨブ記に聴く——被災者の立場からの解釈の試み

窪寺 俊之

編集者アルベルト・レンプの死を悼む手紙

——ミュンヘンの神学的アヴァンギャルドとしての ゲオルク・メルツとクリスティアン・カイザー社	深井 智朗
共同感情と間主観性理論	
——マックス・シェーラーにおける他我知覚の四区分——	齊藤 伸
金明容「モルトマン (J. Moltmann) の終末論」の翻訳	高 萬松・訳
Fostering Student Learning in a Movie-based Course Focusing on Vocabulary Acquisition and Movie Comprehension	
Miyoko Maass, Hideyuki Nakagawa, and Yoko Shimada	
A Synthesis of Japanese Spirit and Western Form—	
Tadao Ando's Challenge to Reawaken Human Sensibilities through Architecture	Sachiko Inda

紀要53号 (406頁)

巻頭言 大学の使命

——一律秋入学論争と中教審答申の問題性を受け止める——	阿久戸光晴
ドイツの基本法における基本権	初宿 正典
人間の運命と歴史	ラインホルド・ニーバー／柳田洋夫・訳
〈ニーバーの祈り〉とスピリチュアリティ	
その日本における受容形態の考察	松本 周

* * *

【第二回日韓キリスト教関係 (交流) 史国際シンポジウム】論文について	
	松本 周

1910年代の韓日教会とリベラル・デモクラシー

——現代が学ぶべきこと	松本 周
松本教授の「1910年代の韓日教会とリベラル・デモクラシー」	
——現代が学ぶべきこと」に対する論評	朴・ヨンコオン
3・1運動の準備過程におけるキリスト者の役割	李 致萬
李致萬教授「3・1運動の準備過程におけるキリスト者の役割」への応答	
	松谷 好明

【付記】	松本 周
------	------

* * *

日韓会談反対運動と日韓教会交流

—日韓教会交流(関係)の歴史研究(第3回) 高 萬松

編集者オイゲン・ディーデリヒスの「思想」を取り出すことは可能なのか
深井 智朗

近代民主国家と市民社会のプロテスタント政治思想序説

—リンゼイ, アルトジウス, カイパー 豊川 慎

ルーヴル美術館構想における奨励作品の複製版画計画 田中 佳

政治的スペースを巡る市民社会組織のアドボカシー

—援助効果論への市民社会の関与から— 林 明仁

公共選択と行政法

—憲法上、いかにして行政主体に対する私人の権利が生み出されるか

伊藤 泰

Luhmanns Systemtheorie und Phänomenologie

—Auseinandersetzung zwischen Phänomenologie und Soziologie—

Toru HIJIKATA

2010年度 大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

紀要53号別冊 (300頁)

日・韓 国際学術シンポジウム

「東アジアの平和と民主主義」特集号

—北朝鮮問題への地域協力体制

はじめに

康 仁徳／小田川興

東アジアの安定と日本の役割

李 鍾元

米国の北朝鮮政策と地域安全保障

ヤン・C・キム

北朝鮮の現状と南北関係

康 仁徳

中国は金正恩時代の北朝鮮にどう接していくか

朱 建榮

日朝関係と国交正常化問題の現状と展望

遠藤 哲也

資料 日朝平壤宣言

北朝鮮経済, 中朝経済協力, 朝口経済関係

三村 光弘

北朝鮮軍の現状

——金正日から金正恩への後継過程での問題——

宮本 悟

北朝鮮問題年表

小田川 興

国際学術シンポジウム

東アジアの平和と民主主義

——北朝鮮問題への地域協力体制 〈課題と展望〉——

講演 李 鍾元

ヤン・C・キム

基調報告 康 仁徳

朱 建榮

報告 遠藤 哲也

三村 弘

渡辺 勉

コメント 宮本 悟

司会 小田川 興

聖学院大学総合研究所活動報告（2009年～2011年）

(4) 「聖学院大学総合研究所 Newsletter」 目次
(B5判, 年5回発行, 19巻から21巻)

Vol.19-1

巻頭言 内発的発展論の視座	稲田 敦子
児童保護史・児童福祉史から「子どもへのまなざし」を読む	田澤 薫
TOEIC Training Report Dean Warren Sotherden	
宗教思想と社会的役割	松本 周
サミュエル・ハンチントンと政軍関係論	宮本 悟
越境する歴史叙述? — 方法論をめぐる一断片 —	佐藤 貴史
オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響 — F. D. モーリスをめぐる —	木村 美里
人間福祉スーパービジョン・センター ピア・スーパービジョン	岡安 努
アジア法の多様性と重層性	島田 桂子
なぜ日本にキリスト教哲学が必要なのか	豊川 慎
宗教とリベラル・デモクラシーの可能性 — イスラム・スカーフ問題を中心に —	野口日宇満
グリーンケアルーム年報2008年度	藤掛 明
教員活動報告2008年度	

高 萬松, 佐藤貴史, 深井智朗, 松谷好明, B. バード

総合研究所 News

- ピア・スーパービジョン アンケート結果
- 都市経営シンポジウム「新たな国のかたちを問う」アンケート結果
- 新機軸の研究会 憲法研究はじまる
- 韓国・長老会神学大学校との「交流提携」にもとづく交換教授
プログラムがはじまる

Vol.19-2

- 巻頭言 若きあるいは老いたる教師の夢 大木 雅夫
北朝鮮の核実験の目的について 宮本 悟
植村正久における「志」再考 松本 周
歴史主義の不安からの解放？
——〈超歴史〉と〈新しい中世〉—— 佐藤 貴史
オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響
——ジョン・ラスキンをめぐって—— 木村 美里
Seigakuin Incoming Freshman Orientation and Study Program English Fun
Brian Byrd
2008年度 牧会心理研究会報告 藤掛 明
近代社会像にとってのフランスの定型性
——憲法学からの一つの見方 豊川 慎
ドイツ憲法の特殊性と普遍性 豊川 慎
An Overview of Japanese Students' Lives in America 斎藤 薫
東欧における体制転換の20年を振り返る
——チェコ共和国を事例として—— 小野澤信一
都市政策・都市計画の新動向
——人口減少・環境制約時代をむかえて—— 中村 準一
教員活動報告

高橋義文, 竹淵香織, 藤掛 明, 藤原淳賀, 藤原真知子,
森田美千代, Dean Warren Sotherden

総合研究所 News

- 小学校教師のための英語教育指導法セミナーアンケート結果
スピリチュアル・ケア講演会「スピリチュアリティの現在とその意味」
アンケート結果

Vol.19-3

- 巻頭言 「非合理性の合理化」と「合理化の非合理性」 土方 透
翻訳であって翻訳でない映像翻訳 島田 洋子

マルチメディアを利用した英語教育	チェンバレン暁子
2泊3日の国内留学で見られた児童の英語学習意欲の向上	藤原真知子
戦前における韓国教会の公的責任について	高 萬松
読み始められた〈新しい思考〉	佐藤 貴史
今必要とされる人物像——オクタヴィア・ヒルと上杉鷹山——	木村 美里
Care for the Aging: A Visit to Beijing	ブライアン・バード
長老会神学大学校における総長就任式	宮本 悟
卒業生を中心とする福祉のネットワーク作り	室井 美紀
子どもにおける生と死	越智 裕子
ガン患者の心と体の痛み：緩和ケアの理解を深めるために	越智 裕子
自死遺族とグリーフケア	越智 裕子
準抛国ドイツの選択と脱却	
——明治14年の政変から伊藤博文の憲法調査まで——	中村 準一
William Bradshawの論著からみた17世紀初頭のピューリタンの「自己認識」	
	豊川 慎
小学校から大学までの英語教育——新学習指導要領が示唆するもの——	
	鈴木 幸

総合研究所 News

ピア・スーパービジョン・アンケート結果

Vol.19-4

巻頭言 自由と平等とグローバリゼーション	郡司 篤晃
The Role of Japanese Language Support in EFL Education	David Burger
伝道——〈道を伝えること〉と〈道で伝えられること〉	松本 周
ラインホルド・ニーバーと日本	松本 周
公立小学校英語必修化へ向けて	藤原真知子・Brian Byrd
長老会神学大学校の終業礼拝	宮本 悟
「福祉の役わり 福祉のこころ」講演会	越智 裕子
ラインホルド・ニーバーとピューリタニズム	豊川 慎
レオ・シュトラウスと新自由主義	小野澤信一
「まちづくりと集客戦略——その最前線を探る——	中村 準一

井上毅と明治憲法	野口日字満
明治憲法制定へのドイツ人の寄与	
——ヘルマン・ロesslerを中心に——	越智 裕子
国際理解教育をめざした英語授業における絵本の活用	斎藤 薫
現代において魂とは	中村 準一
死生学教育に対する教育現場からの発言	越智 裕子
子どもの病と死をめぐる親の経験	
——小児がんで子どもを亡くした親の語りから——	越智 裕子
体制転換20年のポーランド	小野澤信一
総合研究所 News	
カウンセリングシンポジウム「現代人の癒しと信仰」アンケート結果	
英語指導法セミナーアンケート結果	
「福祉の役わり 福祉のこころ」講演会アンケート結果	

Vol.19-5

巻頭言「新型インフルエンザ・パンデミック」をふり返って	中村 磐男
物語を読む	島田 桂子
近代ユダヤ哲学と歴史	佐藤 貴史
思想の伝え方	木村 美里
まちづくりと地方分権改革	平 修久
『光の子と闇の子』について	豊川 慎
ニーバー思想の特質——バルトとの対比において——	鈴木 幸
ドイツ憲法と明治憲法——二つの憲法の関係——	越智 裕子
ドイツ憲法学の日本憲法学への影響——思想史的観点から——	豊川 慎
アメリカ・オバマ政権の医療改革:対立の構図と今後の展望	越智 裕子
権限付与の原則	
——ドイツ連邦憲法裁判所のリスボン条約判決を題材にして——	小野澤信一
日本の思想的伝統とキリスト教	小野澤信一
ピューリタンと祈祷書問題	豊川 慎
〈行政の事業仕分け〉について	中村 準一

総合総合研究所News

東アジアの平和と民主主義——北朝鮮の展望 アンケート結果

東アジアの平和と民主主義

——北朝鮮問題と地域安定基盤の構築アンケート結果

自殺予防と自死遺族支援の現状と課題 アンケート結果

ポリシーカレッジシンポジウム「都市政策の最前線を探る」アンケート結果

スピリチュアル・ケア講演会

「悲嘆とスピリチュアル・ケア」アンケート結果

共同研究の終了と統廃合、新規開始の主題について

英語教育の17年 一貫教育をめざして

都市経営研究 埼玉県の中核都市圏構想および都市政策研究

グローバリゼーションの研究（2003年度～2009年度）

ヨーロッパ統合の理念とその実態研究（2001年度～2009年度）

日韓教会交流史研究日韓併合100年を経た将来へ向けた

日韓キリスト教会の協力牧師

Vol.20-1

巻頭言 日米関係の特異な歴史

有賀 貞

TOEIC Training At Seigakuin Junior & Senior High School

Dean Warren Sotherden

Analyzing and Integrating the SLEP into the ECA Curriculum

Mehran Sabet, Kent Hill

国勢調査から見た韓国におけるキリスト者の現状

宮本 悟

2009年度聖学院大学総合研究所語学ワークショップの報告

メイスみよ子

第2回自殺予防と自死遺族支援の現状と課題

越智 裕子

第5回ピア・スーパービジョン

増山章子, 川副美春, 大西晋介, 塩川智朗, 室井美紀, 川田虎男

明治憲法と明治国制—明治40年の憲法改正

中村 準一

日本国憲法における統治権の権利主体としての国家論

小野澤信一

心病む人の死生に関する家族の対応の仕方

越智 裕子

徳富蘇峰と平民主義

豊川 慎

我が国の国際戦略——対中戦略，拉致問題——

小野澤信一

医療・福祉制度の準市場改革のゆくえ：

イギリス，スウェーデン，デンマークを中心に

越智 裕子

教員活動報告

深井智朗，宮本 悟，高 萬松，松本 周，佐藤貴史，木村美里

総合研究所 News

第2回「自殺予防と自死遺族支援の現状と課題」アンケート結果

第5回ピア・スーパービジョンアンケート結果

Vol.20-2

巻頭言 「共生社会」の射程

稲田 敦子

韓国のルーテル教会の現況と歴史 (1)

宮本 悟

韓国におけるメソジスト教会の受容と成長 (1)

高 萬松

理想の風景を歩く

木村 美里

幼保一元化問題を子どもの「領分」保障から考える

田澤 薫

人口減少下における住宅地の維持に関する調査研究

平 修久

環境保全等のために社会的責任を果たす金融制度の必要性

瀬名 浩一

2009年度 牧会心理研究会報告

藤掛 明

2009年度 グリーフケアルーム年報

藤掛 明

高倉徳太郎の生と死

中村 準一

ニーバー²と「エルンスト・トレルチの影」

松田寿美子

比附（法類推・法の一般原則）の比較法的考察

齊藤 伸

日本における個人と個人主義——トクヴィルを手がかりに——

松田寿美子

ハンナ・アーレントのアメリカ憲法理解

——その契約概念を中心として——

兼松 誠

アメリカ憲法における表現の自由——歴史的視点から——

兼松 誠

2010教員活動報告

森田美千代，藤原淳賀，松谷好明，ディーン・W・サザデン，

藤掛 明，竹渕香織，ブライアン・バード，藤原真知子，

ジャスティン・ナイティンゲール

総合研究所 News

地方自治シンポジウム「首長と地方議会の新たな関係」 アンケート結果
小学校教師のための英語指導法セミナー

「こうやって教えよう小学校英語！現場からの提案」 アンケート結果
スピリチュアル・ケア講演会「医療が癒せない病」 アンケート結果

Vol.20-3

巻頭言 未知の教育	大木 雅夫
韓国教会における平和統一路線	高 萬松
韓国のルーテル教会の現況と歴史 (2)	宮本 悟
韓国におけるメソジスト教会の受容と成長 (2)	高 萬松
第6回ピア・スーパービジョン	長澤 大輔
子どもの島——ルソーのイメージ——	鈴木 幸
ラインホルド・ニーバーと宗教多元性 ——現代におけるキリスト教の絶対性の神学的理解——	鈴木 幸
アメリカ憲法における人間の尊厳論	松田寿美子
「ヨーロッパ思想と霊性」	齊藤 伸

総合研究所 News

小学校教師のための英語指導法セミナー アンケート結果
ピア・スーパービジョン アンケート結果
カウンセリング研究講演会「現代人の孤独を考える」 アンケート結果
国際シンポジウム
「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と日韓の役割」

Vol.20-4

巻頭言 自己同一性の隘路 ^{アポリア} ——自律から他律へ	土方 透
寺崎恵子氏報告 子どもの島——ルソーのイメージ——	田澤 薫
地域主権改革の行方——政権交代に伴う動向と税財政改革——	平 修久
大都市の公共交通政策	平 修久
現代人の孤独を考える	越智 裕子
現代社会におけるポスト合理性の問題	越智 裕子

中国におけるプロテスタント神学教育の現状
 ニーバー兄弟の経済倫理——ヴェーバー理論に関連して——
 人権理念におけるピューリタニズムの伝統
 アメリカ合衆国における政教分離について
 違憲審査制と民主主義——アメリカ憲法と違憲審査制を巡る論点——

松谷 好明
 兼松 誠
 松田寿美子
 松田寿美子
 松田寿美子

文化とキリスト—— sacramental approach

兼松 誠

総合研究所 News

スピリチュアル・ケア講演会——臨床医のナラティブアンケート結果
 現代社会におけるポスト合理性の問題アンケート結果
 福祉の役わり 福祉のこころアンケート結果
 聖学院学術情報発信システムを活用した公開に向けて

Vol.20-5

巻頭言 タイガーマスクと福祉のコナンドラム
 聖学院小学校での「日本を伝える」英語の授業
 『神のみくらに玉と輝け——愛と祈りの教育者 中川咲子の物語——』

郡司 篤晃
 藤原真知子
 森田美千代

スピリチュアルケア研究講演会——臨床医のナラティブ
 「福祉のこころ」講演会 福祉の役わり・福祉のこころ
 土方透氏報告「差異に生きる＝共に生きる 子どもとおとな」
 長老会神学大学・聖学院大学総合研究所 日韓教会交流史研究会

中村 準一
 越智 裕子
 田澤 薫
 松本 周

アメリカ憲法とハリントン『オシアナ共和国』

——明治憲法・ヴァイマル憲法とのかかわりで——

アメリカ憲法と日本国憲法—私にとってのアメリカ憲法 (学)
 末期医療の現場で交流分析はどの様に役立つか
 キリスト教現実主義をめぐって
 裁判所風景論——法文化の日本的コンテクスト

兼松 誠
 豊川 慎
 越智 裕子
 豊川 慎
 豊川 慎

総合研究所 News

聖学院ポリシーカレッジ総括シンポジウム

「地域主権の国づくり，地方議員の役割を考えるアンケート結果

Vol.21-1

巻頭言 社会福祉理念の普遍性と今後の社会展望

—東日本大震災のこのときに思う

牛津 信忠

マルチメディア支援ソフトを利用した映画英語授業

—L3Stage EZVを利用した授業について—

チェンバレン暁子

石津靖大氏報告「興について」

田澤 薫

松本祐子氏報告「魔法にかけられた子どもたち」

田澤 薫

第7回ピア・スーパービジョン

高橋成子，秀村智香，大島友子

アメリカ憲法と日本国憲法

豊川 慎

教員活動報告

深井智明，松谷好明，宮本 悟，藤原真知子，Brian Byrd，藤原真知子

総合研究所News

学術セミナー「北朝鮮問題と日韓米の対応」アンケート結果

第7回ピア・スーパービジョンアンケート結果

Vol.21-2

巻頭言 現実主義の必要を思う

高橋 義文

日韓条約批准反対運動の中のキリスト者たち

高 萬松

高等学校学習指導要領における「目標」の比較考察

齊藤 伸

村山順吉氏報告『子どもの領分』をめぐる

田澤 薫

金谷京子氏報告「子どもの言い訳にあらわれるもの」

田澤 薫

スピリチュアルケア研究講演会

「スピリチュアル・コミュニケーション—生きる支え—」

越智 裕子

ニーバーの愛と正義の弁証法的理解および世界共同体論

松田寿美子

韓国の神学について—モルトマンとの関わりから—

兼松 誠

ドイツ基本法（憲法）の成立と展開

兼松 誠

教員活動報告

森田美千代，藤原淳賀，藤掛 明，ディーン・サザデン，

竹渕香織, 高 萬松, 松本 周, ジャスティン・ナイティンゲール,
木村美里

総合研究所 News

総合研究所ファカルティ・ミーティング報告

カウンセリング研究講演会

「スピリチュアル・コミュニケーション」アンケート結果

Vol.21-3

- | | |
|---|-------|
| 巻頭言 歴史の深層を耕す | 稲田 敦子 |
| ラインホルド・ニーバー「秘儀と意味」をめぐって | 高橋 義文 |
| 「1973年韓国キリスト者宣言」の作成経緯とその意義 | 高 萬松 |
| H. G. アンダーウッド宣教師と韓国そして日本 | 松本 周 |
| 2010年度牧会心理研究会報告 | 藤掛 明 |
| 2010年度グリーンケアルーム年報 | 藤掛 明 |
| いかに心の世界を学ぶか | |
| 永井理恵子氏報告「児童学でよむ ディック・ブルーナの世界」 | 田澤 薫 |
| 韓国・長老会神学大学校との交流——現状と今後—— | 松本 周 |
| ミャンマー・カレン族難民におけるキリスト教 (1) | 宮本 悟 |
| イギリス短期留学記——キール, アムステルダム, ケンブリッジ | 豊川 慎 |
| ヴィクトリア時代思想セミナー | |
| ドイツの基本法と基本権——Grundrechte im Grundgesetz für die BRD | 斎藤 薫 |
| キリスト教の死生観 | 越智 裕子 |
| ニーバー「秘儀と意味」(Mystery and Meaning)をめぐって | 兼松 誠 |
- 総合研究所 News
- 牧会サマーセミナー「傷ついた魂の癒やしを求めて」報告
- カウンセリング研究センター講演会
- 「いかに心の世界を学ぶか」アンケート結果

Vol.21-4

巻頭言 9.11, 3.11そして学問の論理——パラドクスとその隠蔽——

土方 透

ラインホルド・ニーバーの著作の翻訳について 高橋義文

The Nature and Destiny of Man, Volume II. “Human Destiny”

——翻訳への挑戦——

鈴木 幸

ミャンマー・カレン族難民におけるキリスト教 (2)

宮本 悟

第8回ピア・スーパービジョン

真田 沙織

若い魂の語る言葉——『託せられた賜物 続・若い魂の養いに』を読んで

阿部 洋治

日本国憲法の平和主義・再考

総合研究所 News

第8回ピア・スーパービジョン アンケート結果

「福祉の役わり・福祉のこころ」講演会 アンケート結果

「東日本大震災を神学的にどのように受け止めるか」 アンケート結果

「朝鮮半島情勢と日本の対応」 アンケート結果

「希望・尊厳・スピリチュアル」 アンケート結果

「子どもの生と死」 アンケート結果

Vol.21-5

巻頭言 聖なるものへ憧れ

大木 雅夫

日韓条約を巡る日韓教会の共通認識——1965年前後を中心にして——

高 萬松

Seigakuin Elementary School English Teacher Training Seminars Brian Byrd

日本の小学校における内容言語統合学習 (CLIL) の試み

藤原真知子

iPad vs Paper

Justin Nightingale

クリティカル・リーディングの導入と実践

中川 英幸

オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響

——サウスウッド・スミスをめぐって

木村 美里

韓国ソウルを訪れて——翻訳の問題から考える——

鈴木 幸

EUと民主主義	木村 美里
入江礼子氏報告「協働する保育を支える保育実践研究法」	田澤 薫
喜田敬氏報告「DBAE-コンテンポラリーアートと保育造形」	田澤 薫
臨床死生学研究シンポジウム「緩和ケアをどのように進めるか」	
The Nature and Destiny of Man Volume II Human Destiny	
第1章の翻訳について	鈴木 幸
書評『はじめてのキング牧師』	森田美千代
共同研究報告	
立憲政治と「体用」論—資料の解題を中心に	
研究計画についての協議	
研究所News	
臨床死生学研究シンポジウム「緩和ケアをどのように進めるか」	
臨床死生学研究シンポジウム「東日本大震災からの再生に向けて」Part2	
国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義—北朝鮮問題への	
地域協力体制：課題と展望」	
東日本大震災国際神学シンポジウム	
(2012年3月23日)開催の準備過程報告	
2011年度総合研究所方針の報告	

Ⅲ 聖学院大学出版会活動報告

(1) 目的と理念

大学・大学院の研究成果を公開する機能を担っている聖学院大学出版会は、総合研究所に位置づけられ、次のような出版活動をしている。また東京大学出版会、法政大学出版局など32の大学出版会によって構成される「大学出版部協会」に加盟し、大学外にも出版物を普及させている。

- 1) プロテスタント・キリスト教の精神と文化の伝統を継承する学校として、キリスト教文化、キリスト教教育の発展に寄与する出版活動。
- 2) 学校法人聖学院の諸学校と有機的関係を持った出版活動。
- 3) 「聖学院大学の理念」に基づき、学際的かつ国際的、創造的かつ総合的学問の進展をはかる出版活動。

また、次のような出版物を刊行する。

- ①学校のカリキュラムに即した講義テキスト、とくにキリスト教学校の「聖書科」教科書
- ②研究の成果としての学術書
- ③University Extension の趣旨に基づく学術的啓蒙書
- ④学生・生徒の人生の伴侶となりうるような教養書
- ⑤キリスト教思想・評論などの専門書

これまでに『パウル・ティリッヒ研究』、ニーバー『アメリカ史のアイロニー』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』、ティリッヒ『宗教の未来』など、また、臨床死生学研究叢書、社会福祉分野のブックレットなど90点を超える書籍を発行している。

(2) 出版物（発行日順）

2009年4月25日

W・パネンベルク著／大木英夫・近藤勝彦監訳『現代に生きる教会の使命』

2009年7月25日

T・R・ライト著／山形和美訳『神学と文学——言語を機軸にした相関性』

2009年10月10日

阿部志郎・長谷川匡俊・濱野一郎著『与えあうかわりをめざして』〈福祉の役わり・福祉のこころ2〉

2010年2月5日

ラインホールド・ニーバー著／高橋義文・西川淑子訳『ソーシャルワークを支える宗教の視点——その意義と課題』

2010年3月25日

平山正実編著『死別の悲しみから立ち直るために』〈臨床死生学研究叢書2〉

2010年11月20日

岩尾貢・平山正実著『とことんつきあう関係力をもとに』〈福祉の役わり・福祉のこころ3〉

2011年1月20日

窪寺俊之編著 スピリチュアルケアを学ぶ1『癒やしを求める魂の渇き——スピリチュアリティとは何か』

2011年9月10日

荒川洋治・柏木昭著『みんなで参加し共につくる』〈福祉の役わり・福祉のこころ4〉

2011年10月20日

聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター編『被災者と支援者のための心のケア』

2011年11月30日

窪寺俊之編著『スピリチュアルペインに向き合う——こころの安寧を求めて』〈スピリチュアルケアを学ぶ2〉

2012年1月31日

枝野幸男著『希望の芽はある——枝野幸男学生に語る』

2012年2月10日

平山正実編著『死別の悲しみを学ぶ』〈臨床死生学研究叢書3〉

2012年3月20日

聖学院中学校・高等学校，女子聖学院中学校・高等学校聖書科教科書編集委員会編著『神を仰ぎ人に仕う——召命に生きた人々』

2012年3月23日

土方透編著『現代社会におけるポスト合理性の問題——マックス・ヴェーバーの遺したもの』

2012年3月30日

ヨハン・セルス, チャールズ・E・マクジルトン著『人間としての尊厳を守るために——国際人道支援と食のセーフティネットの構築』

IV 聖学院ポリシーカレッジ活動報告

聖学院ポリシーカレッジは、聖学院大学大学院政治政策研究科の「先端政策研究」（2単位）の正規科目として位置づけられるが、同時に地域に貢献し、地元に着することを旨として開講している。この趣旨により地域の自治体職員、地方議会議員等の人材育成に貢献する公開講座としての性格を併せ持つ。2004年度から開始された。

2009年度

今年は、「都市政策の最前線を探る-現代都市のまちづくりを考える-」というテーマのもとに開催された。昨年同様、埼玉県内自治体・議会事務局を回り、講座、講演会のパンフレット配布を行った。聖学院大学大学院「先端政策研究」の科目として開講されている。大学院の広報の働きも担っている。

参加者一覧

NPO ヒューマン ネットライフ工房	板橋区議会議員	さいたま市議会 議員	日光市職員
(株)サイサン取締 役会長	行田市議会議員	上尾市職員	熊谷市議会議員
相模原市議会議員	さいたま市議会 議員	上尾市職員	聖学院大学 大学院生
川越市議会議員	川口市議会議員	上尾市職員	聖学院大学 大学院生
聖学院大学 大学院生			

2009. チラシ配布, 自治体・議会事務所

月 日	曜日	訪 問 場 所		走行距離
8月18日	火	川口市, 鳩ヶ谷市, 戸田市, 蕨市, 和光市	5	115 km
8月19日	水	熊谷市, 本庄市, 深谷市, 行田市, 鴻巣市	5	107 km
8月20日	木	川越市, 鶴ヶ島市, 坂戸市, 東松山市	4	181 km
8月21日	金	八潮市, 三郷市, 吉川市	3	143 km
8月25日	火	草加市, 越谷市, 春日部市	3	118 km
8月26日	水	新座市, 朝霞市, 志木市, 富士見市, ふじみ野市	5	71 km
8月27日	木	所沢市, 入間市, 狭山市, 日高市	4	111 km
8月31日	月	蓮田市, 久喜市, 羽生市, 加須市, 騎西町, 菖蒲町	6	125 km
9月1日	火	上尾市, 桶川市, 北本市	3	55 km
		合計 40自治体 (徒歩での埼玉県庁, さいたま市を含む)		1,026 km

2010年度

今年度は、「地域主権と地方議会, 議員の最前線」というテーマの基に開催された。昨年同様, 埼玉県内自治体・議会事務局を回り, 講座, 講演会のパンフレット配布を行った。

参加者一覧

行田市議会議員	蓮田市議会議員	さいたま市議会議員	NPO職員
全国議会議長会職員	主婦	一般職	大学院生・大学生

2010. チラシ配布, 自治体・議会事務所

月日	曜日	訪問場所		走行距離
8月2日	月	流山市, 松戸市, 三郷市, 八潮市, 草加市	5	151 km
8月3日	火	本庄市, 深谷市, 熊谷市, 行田市, 鴻巣市	5	195 km
8月4日	水	川口市, 越谷市, 鳩ヶ谷市, 加須市, 羽生市	5	153 km
8月5日	木	川越市, 鶴ヶ島市, 坂戸市, 東松山市, 鳩山町	5	131 km
8月6日	金	春日部市, 蓮田市, 白岡町, 宮代町, 野田市	5	184 km
8月10日	火	戸田市, 蕨市, 和光市, 久喜市, 幸手市, 杉戸町	6	188 km
8月11日	水	所沢市, 入間市, 狭山市, 飯能市, 日高市, 三芳町	6	124 km
8月12日	木	朝霞市, 新座市, 志木市, 富士見市, ふじみ野市	5	117 km
8月13日	金	上尾市, 北本市, 桶川市, 松伏町, 伊奈町, 吉川市	6	167 km
8月16日	月	埼玉県庁, さいたま市, 大宮ソニックシティ (埼玉経済同友会)	3	徒歩
		合計 51自治体 (徒歩での埼玉県庁, さいたま市を含む)		1,410 km

V カウンセリング研究センター

(グリーンケアルーム・牧会電話相談・牧会サマーセミナー)

2009年度

グリーンケアルーム

グリーンケアルームの名前も浸透してきており、年々相談者数が増加傾向にある(相談者累計:119名/年)。「総合研究所 Newsletter」Vol.20-2, p.17に詳細な報告がある。

- (1) 外部委託のカウンセリング(他大学院から委託された大学院生の教育カウンセリングなど)が2007年度で終了しているが、それにもかかわらず赤坂でのカウンセリング件数はゆるやかに増加傾向にある。
- (2) 新規ケースの主訴内訳をみると、多種になり、うつ、の相談、夫婦関係や職場の人間関係などの数が増加傾向にある。一方で、当相談室の特徴のひとつであるコンサルテーションやグリーンケアについては、あまり数の上での大きな動きがない。
- (3) 来談経路をみると、年々牧師や教会関係者からの紹介が増加しており、また来談者も信仰者の比率が高まってきている。首都圏のキリスト教会および関係者に、当相談室の存在が認知されていることがうかがわれる。
- (4) 来談者の居住地域も、相談室が都内にあることから、東京、埼玉、神奈川の3県が中心になっている。
- (5) 相談室長の平山正実教授の指導の下、「キリスト教カウンセリング」に関する勉強会も継続して行い、討議や資料を蓄積させている。インターカー制度も継続しており、カウンセラーも2名体制を続けている。
- (6) かねてから、地方の教会関係者から、最寄りの相談機関を紹介してほしい旨の依頼が寄せられることがあったが、2008年度からは当相談室と連携し、牧師、牧師夫人に対する無料電話相談(「牧会電話相談」)制度が始まった。画期的な試みであり、今後の展開が期待される。

牧会電話相談

08年度から牧会電話相談が始まった。個々の牧会者の複雑な事情もあり、なかなか電話相談の浸透が進まなかった。牧会雑誌「ミニストーリー」などに牧会電話相談の広告を掲載した。今後もより一層対応に留意して実務していきたい。09年度3件の相談があった。

牧会サマーセミナー

09年8月14日（金）に、下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。全国より11名の参加者があった。

今、牧会者自身が「癒し」を必要としている。心身共に疲れ果てては、伝道も牧会もできない。聖学院大学牧会サマーセミナーは、牧会者自身の「癒し」と「自己開示」をテーマにして、加藤常昭先生の二回の講演（「癒し」と「自己開示」）とその後の分団の話し合いを準備した。分団では、自分自身を見直し、自己を癒す道を考えたいと企画した。精神科医の平山正実、カウンセラーの窪寺俊之、藤掛明、村上純子がファシリエーターとして参加した。

9：30	受付
10：00～12：00	第1回講演（癒し） 加藤常昭先生
12：00～13：00	昼食と簡単な自己紹介
13：00～15：00	第2回講演（自己開示） 加藤常昭先生
15：00～15：30	コーヒープレイク
15：30～17：30	分科会（2グループ）
18：00～19：00	夕食
19：00～20：00	全体会（まとめ）
20：00	解散

2010年度

グリーンケアルーム

グリーンケアルームの名前も浸透してきており、年々相談者数が増加傾向に

ある（相談者累計：130名／年）。「総合研究所 Newsletter」Vol.21-3, p.16に詳細な報告がある。

- (1) グリーフケア・ルームが8年目を迎え、カウンセラー2名体制のもと、カウンセリングを順調に展開している。
- (2) キリスト教界でも、本相談室は年々認知されてきている。来談者も、キリスト教信仰者であり、来談のきっかけも、牧師や信徒による紹介であることが多くなっている。また、毎年、牧師がコンサルテーション（自らの教会事例に、カウンセラーからの心理面での助言を求める）を受け場としての利用もなされている。
- (3) 相談経路を見ると、友人・知人から、および牧師からの紹介が大半を占める。これは、いわゆる口コミでの評判が新たな利用者をお呼びかたちになっているものと思われる。
- (4) 類似の相談室がないということもあり、利用者は東京都を中心に広域に散らばっており、たとえ遠方であっても本相談室を利用する方々がいる。

教会電話相談

08年度から教会電話相談が始まった。教会者が孤立することから生じる様々な問題に電話相談で対応している。今年度も教会者の複雑な状況が垣間見られる。なお、10年度に教会カウンセラーとして堀肇氏を採用した。10年度4件の相談があった。

教会サマーセミナー

10年7月30日（金）に下記の内容にて教会サマーセミナーを開催した。全国より9名の参加者があった。

テーマ「今日の教会と牧師の役割——牧師のアイデンティティは何か——」

現代の牧師が抱えている様々な悩みを共に考え、解決の道を探るセミナー、自分自身を深く見つめ、新たな牧師像を見出すためのセミナーであった。

8：30 集合

9：00 開会

9：00～9：05 挨拶

9：05～9：20	礼拝
9：20～10：30	講演Ⅰ 窪寺俊之「牧師とその立場——ストレス解消の鍵」
10：30～10：40	休憩
10：40～11：50	講演Ⅱ 堀 肇「苦悩する現代の牧会者への牧会を考える」
11：50～12：00	休憩
12：00～13：00	昼食と自己紹介
13：00～15：00	分団会
15：00～16：30	全体会議
16：30	解散

2011年度

グリーンケアルーム

グリーンケアルームの名前も浸透してきており、予約表がすべて埋まる日もあった（相談者累計：112名／年）。

- (1) グリーンケア・ルームが9年目を迎え、カウンセラー2名体制のもと、カウンセリングを順調に展開している。
- (2) キリスト教界でも、本相談室は年々認知されてきている。来談者も、キリスト教信仰者が多く、来談のきっかけも、牧師による紹介であることが多く、この傾向は年々強くなっている。牧師自身が自分個人の問題解決のために同僚牧師の勧めで来談するケースも見られるようになった。
- (3) 相談経路を見ると、牧師からの紹介が大半を占める。これは、教界内での一定の評価を得ているものと考えられる。
- (4) 利用者は、埼玉県、東京都が中心となっている。2011年度の新規ケースに限っていえば、遠方からの利用者はいなかった。

牧会電話相談

無料とはいえ電話による20分間の相談であり、牧会者の課題の解決にすぐ結びつくものではない。しかし、困難な問題に直面している方々には、自らを

振り返るひとときとなるようである。11年度7件の相談があった。

牧会サマーセミナー

11年9月2日（金）に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。全国より7名の参加者があった。

テーマ「傷付いた魂の癒やしを求めて」現代の牧師が抱えている様々な悩みを共に考え、解決の道を探るセミナー、自分自身を深く見つめ、新たな牧師像を見出すためのセミナーであった。

9：00～	受付
9：00～9：05	開会挨拶
9：05～9：20	礼拝
9：20～10：30	第1回講演 堀 肇
10：30～10：40	休憩
10：40～11：50	第2回講演 藤掛 明
11：50～12：00	休憩
12：00～13：00	昼食と自己紹介
13：00～15：00	分団会（2グループ）
15：00～16：30	全体会議 解散

VI 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター

社会福祉の現場には高齢者、障害者、児童、医療機関等々さまざまな場所がある。福祉実践の専門職についた人々が、それぞれ専門的な知識、技術、価値および倫理が求められる社会福祉の現場に立ち、日々、さまざまな戸惑いや、失敗、迷い、揺れに直面することがある。

福祉の専門職は、職場内の新人教育や現任者訓練（OJT）などの機会を得ながら、少しずつ専門的知識と技術と価値を身につけていく。しかし職場内に新人教育のシステムがある福祉現場は多くはない。サポートのない中で不安を抱えながら仕事を続ける人や、問題意識を一人で抱え込み孤立する人、対人援助の中で自分自身の課題と向き合わざるを得ずに傷つく人などなど、夢と希望を抱いて就いた社会福祉の現場で、未来を描けなくなっている人は少なくない。

福祉の現場で働いている方々に対し、現実において直面する、このような壁を乗り越えるために、スーパービジョンという支援方法がある。総合研究所人間福祉学研究センターでは、2007年度に人間福祉スーパービジョンセンターを設置し、社会福祉の現場で活動する方々にスーパービジョンの機会を提供している。

〈スーパービジョンとは？〉

スーパーバイザー（熟練のソーシャルワーカー）がスーパーバイジー（経験の浅いソーシャルワーカー）に対し、その人の能力を最大限に生かしてよりよい実践ができるように責任を持って指導訓練を行うものである。

今働いている場所で問題となっている状況や困っている事例などについてともに考え、不安やとまどいに耳を傾け、背後にある気持を受け容れ、有効なアドバイスや視点について示唆を与えることによる指導体制をいう。

〈スーパービジョンの機能〉

- ・ 教育的機能：知識や技能、態度、倫理などを身につける

- ・ 管理的機能：組織における職員としての管理的側面に関するあり方と PSWの利用者ニーズへの適正な業務遂行の教育支援
- ・ 支持的（心理的・援助的）機能：スーパーバイザーの情緒的サポート

〈スーパービジョンセンターのプログラム〉

①個別スーパービジョン

スーパーバイザーがスーパーバイザーと契約をして、個別に応じた課題についてのスーパービジョンを提供する。

対 象：対人援助職についている本学卒業生及び一般で、スーパーバイザーによる個別スーパービジョンを希望する人（経験年数は不問）

開催頻度：個別のニーズに応じるが、おおよそ毎月1回程度 1回1.5時間程度

開催日時：スーパーバイザーとスーパーバイザーの日程調整による

開催場所：聖学院大学、聖学院本部、その他

費 用：聖学院大学卒業生 2,000円（1回）一般 6,000円（1回）

②グループ・スーパービジョン

10名前後のグループで、お互いの実践現場のかかわりについて事例提供をする。スーパーバイザーとの間でとりきめた方法によって実施する。

対 象：対人援助職についている本学卒業生及び一般で、グループによるスーパービジョンを希望する人（経験年数は不問）

開催頻度：月1回／年10回の通年プログラム

開催日時：平日夜 18時半～20時半（2時間）

開催場所：2010年度までは聖学院大学生涯学習センター（新都心ビジネス交流プラザ内）

2011年度より埼玉県男女共同参画推進センターセミナー室

費 用：本学卒業生 20,000円（年間）一般 30,000円（年間）

③ピア・スーパービジョン（研修交流会）

実践現場で必要な知識やかかわりについて見直し、また自己覚知を促すなど、日々の業務を見直す機会となるような研修会を開催する。個別スーパー

ビジョンやグループ・スーパービジョン等に参加することのできない人たちも参加でき、お互いに知り合い、情報交換の機会とする。

対 象：対人援助職についている本学卒業生及び一般

開催頻度：年2回

開催日時：春と秋の土曜日等の日中。ホームページ等で別途案内する。

費 用：無料（終了後の懇親会に参加する場合は実費負担）

④スーパーバイザー支援制度

後輩や実習等においてスーパービジョンを行っているものの自信がないという人は少なくない。スーパービジョンのかかわりについての話し合いを通し、サポートの機会を提供する。

対 象：福祉現場において後輩および学生等に対してスーパーバイザーとしてスーパービジョンを提供している人

開催頻度：個別のニーズに応じるが、1回1.5時間程度

開催日時：スーパーバイザーとの日程調整による

開催場所：聖学院大学、聖学院本部、その他

費 用：本学卒業生 5,000円（1回）一般 8,000円（1回）

〈スーパーバイザーおよびコーディネーター〉

スーパーバイザー

柏木 昭（聖学院大学総合研究所名誉教授，社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長／人間福祉スーパービジョンセンター顧問）

助川 征雄（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授・学科長，精神保健福祉士）

大野 和男（NPO法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦理事長，社団法人日本精神保健福祉士協会相談役，聖学院大学非常勤講師，社会福祉士，精神保健福祉士）

田村 綾子（聖学院大学人間福祉学科准教授，社団法人日本精神保健福祉士協会常任理事・研修センター長・認定スーパーバイザー，社会福祉士，精神保健福祉士）

行實志都子（文京学院大学人間福祉学科准教授，聖学院大学非常勤講師，社会福祉士，精神保健福祉士）

廣江 仁（社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所F&Y境港（就労継続A型、B型）所長，社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー，精神保健福祉士）

相川 章子（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授，精神保健福祉士）

コーディネーター

中村 馨男（聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授／人間福祉スーパービジョンセンター長）

牛津 信忠（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学部教授・学部長／人間福祉スーパービジョンセンター委員長）

2009年度活動報告

(1) スーパービジョンセンター委員会

第1回 2009年4月22日（水）10：50～11：30

第2回 2009年7月15日（水）11：00～12：00

第3回 2009年9月30日（水）11：30～12：30

第4回 2009年12月16日（水）11：30～12：30

第5回 2010年3月17日（水）11：30～12：30

(2) 個別スーパービジョン

① 柏木 昭 人数：2名 実施回数：4回

② 助川 征雄 人数：2名 実施回数：8回

③ 田村 綾子 人数：1名 実施回数：3回

(3) グループ・スーパービジョン

① 柏木 昭 人数：2名 実施回数：10回

(4) ピア・スーパービジョン

① 2009年10月10日（土）13：30～16：45 聖学院大学4号館4階会議室
講演1「スーパービジョンとは何か」

柏木 昭（聖学院大学総合研究所名誉教授）
講演2「スーパーバイザーの立場から」
田村 綾子（社団法人日本精神保健福祉士協会常任理事・研修センター
長，聖学院大学非常勤講師）
ピア・スーパービジョン（グループディスカッション）
懇親会
総合司会 室井 美紀
（SWnet代表，聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W）
講演司会 助川 征雄（聖学院大学人間福祉学科教授）
参加者 32名

(5) スーパーバイザー支援制度

①柏木 昭 人数：1名 実施回数：3回

(6) 研究成果公開

①総合研究所 Newsletter19-1

「人間福祉スーパービジョンセンター ピア・スーパービジョン」
岡安 努（聖学院大学人間福祉学科卒業生 99W）

②総合研究所 Newsletter 19-3

「卒業生を中心とする福祉のネットワーク作り」
室井 美紀（前掲）

③総合研究所 Newsletter 19-3

2009年度ピア・スーパービジョンアンケート結果

④2009年度人間福祉スーパービジョンセンター年次報告

2010年度活動報告

(1) スーパービジョンセンター委員会

第1回 2010年4月21日（水）11：30～12：30

第2回 2010年7月21日（水）11：30～12：30

第3回 2010年9月29日（水）11：30～12：30

第4回 2010年12月15日(水) 11:30~12:30

第5回 2011年2月23日(水) 11:30~12:30

(2) 個別スーパービジョン

① 柏木 昭 人数:3名 実施回数:10回

② 助川 征雄 人数:2名 実施回数:16回

③ 田村 綾子 人数:3名 実施回数:10回

④ 大野 和男 人数:1名 実施回数:1回

(3) グループ・スーパービジョン

① 埼玉県 柏木 昭 人数:8名 実施回数:10回

② 石川県 柏木 昭 人数:11名 実施回数:11回

(4) ピア・スーパービジョン

① 第5回 2010年4月17日(土) 13:30~16:30

新都心ビジネス交流プラザ4階

報告1「精神保健福祉士から」

増山 章子(聖学院大学人間福祉学科卒業生101W)

報告2「医療ソーシャルワーカーから」

川副 美春(聖学院大学人間福祉学科卒業生100W)

報告3「高齢者福祉分野から」

大西 晋介(聖学院大学人間福祉学科卒業生101W)

報告4「障がい者福祉分野から」

塩川 智大(聖学院大学人間福祉学科卒業生101W)

解説「ピア・スーパービジョンとは？」

助川 征雄(聖学院大学人間福祉学科長)

ピア・スーパービジョン(グループディスカッション)

全体共有

司会 引地 之宜(聖学院大学人間福祉学科卒業生98W)

参加者 36名

②第6回 2010年10月16日(土) 13:30～16:30

聖学院大学4号館4階会議室

講演主題 ～ソーシャルワーカーとしての歩み～

講演1「ピアヘルパー制度創設と今」

行實志都子(文京学院大学准教授, 聖学院大学非常勤講師, 社会福祉士,
精神保健福祉士)

講演2「病院, 作業所, そして今」

廣江 仁(社会福祉法人養和会障害福祉サービス事業所F&Y境港就
労継続A型, B型, 精神保健福祉士)

ピア・スーパービジョン(グループディスカッション)

全体共有

司会 長澤 大輔(聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W)

参加者 49名

③第7回 2011年2月26日(土) 13:30～16:30

新都心ビジネス交流プラザ4階

解説「ピア・スーパービジョンとは?」

相川 章子(聖学院大学人間福祉学科准教授)

報告1「精神保健福祉士から」

高橋 成子(聖学院大学人間福祉学科卒業生 104W)

報告2「高齢者福祉分野から」

秀村 智香(聖学院大学人間福祉学科卒業生 102W)

報告3「障害者福祉分野から」

紫藤 彬子(聖学院大学人間福祉学科卒業生 103W)

ピア・スーパービジョン(グループディスカッション)

全体共有

コーディネーター 大島 知子(聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W)

司会 長澤 大輔(聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W)

参加者 25名

(5) スーパーバイザー支援制度

① 柏木 昭 人数：1名 実施回数：3回

(6) 研究成果公開

① 総合研究所 Newsletter 20-1

「第5回ピア・スーパービジョン」

増山 章子 (前掲), 河副 美春 (前掲), 大西 晋介 (前掲),

塩川 智大 (前掲), 室井 美紀 (前掲),

川田 虎男 (聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W)

② 総合研究所 Newsletter 20-1

第5回ピア・スーパービジョン アンケート結果

③ 総合研究所 Newsletter 20-3

「第6回ピア・スーパービジョン」長澤 大輔 (前掲)

④ 総合研究所 Newsletter 20-3

第6回ピア・スーパービジョン アンケート結果

⑤ 2010年度人間福祉スーパービジョンセンター年次報告

2011年度活動報告

(1) スーパービジョンセンター委員会

第1回 2011年4月20日 (水) 16:30～17:30

第2回 2011年6月29日 (水) 11:30～12:30

第3回 2011年9月21日 (水) 12:30～13:00

第4回 2012年2月22日 (水) 15:15～15:45

(2) 個別スーパービジョン

① 柏木 昭 人数：4名 実施回数：14回

② 田村 綾子 人数：1名 実施回数：2回

(3) グループ・スーパービジョン

① 埼玉県 柏木 昭 人数：9名 実施回数：9回

②石川県 柏木 昭 人数：10名 実施回数：9回

(4) ピア・スーパービジョン

①第8回 2011年10月15日（土）13：30～16：30

聖学院大学4号館4階会議室

講演「ソーシャルワーカーとしての歩みと『ぴあ三浦』の活動」

大野 和男（NPO法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の
会ぴあ三浦理事長，聖学院大学非常勤講師，社会福祉士，
精神保健福祉士）

解説「ピア・スーパービジョンとは？」

助川 征雄（聖学院大学人間福祉学科長）

ピア・スーパービジョン（グループディスカッション）

全体共有

司会 山田 裕太（聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W）

参加者 24名

②第9回 2012年2月25日（土）13：20～16：40

聖学院大学4号館4階会議室

報告1「障害者就労支援センターから」

宮崎 和香（聖学院大学人間福祉学科卒業生 99W）

報告2「地域包括支援センターから」

青木 優子（聖学院大学人間福祉学科卒業生 100W）

報告3「地域活動支援センターから」

奈良部清香（聖学院大学人間福祉学科卒業生 105W）

報告4「病院から」

山谷 謙介（聖学院大学人間福祉学科卒業生 105W）

ピア・スーパービジョン（グループディスカッション）

全体共有

コーディネーター 大島知子（聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W）

司会 山田 裕太（聖学院大学人間福祉学科卒業生 98W）

参加者 19名

(5) 研究成果公開

①総合研究所Newsletter21-1

「第7回ピア・スーパービジョン」

秀村 智香（前掲），高橋 成子（前掲），大島 知子（前掲）

②総合研究所Newsletter21-1

第7回ピア・スーパービジョン アンケート結果

③総合研究所Newsletter21-4

「第8回ピア・スーパービジョン」

眞田 沙織（聖学院大学人間福祉学科卒業生103W）

④総合研究所Newsletter 21-4

第8回ピア・スーパービジョン アンケート結果

⑤2011年度人間福祉スーパービジョンセンター年次報告

Ⅶ 聖学院キッズ英語

幼稚園児から小学生を対象にした英語教室。歌やゲーム、ストーリーブックなどを楽しみながら、聴く、話す、読む、書く、の総合的な力をだんだんと身につけられるように指導する。

2011年度より担当事務局が国際協力課から研究支援課になった。

(1) 講師

ブライアン・バード（聖学院大学総合研究所特任講師）

藤原真知子（聖学院大学総合研究所特任講師）

ジャスティン・ナイティンゲール（聖学院大学総合研究所特任講師）

西嶋小百合（聖学院大学総合研究所委託講師）

山根真由美（聖学院大学総合研究所委託講師）

(2) 開講

- ・ 1期 4月～9月 幼稚園児13回
小学生15回（1年生のみ5月から12回）
- ・ 2期 10月～3月 幼稚園児13回,
小学生15回
ママと一緒に（年少園児とその保護者）7回

(3) 料金

- ・ 幼稚園 各期受講料26,000円
各期教材費 2,000円
(通年申し込みの場合は年間2,000円割引)
- ・ 小学生 各期受講料30,000円（1年生1期のみ24,000円）
各期教材費 2,000円
(通年申し込みの場合は年間2,000円割引)
- ・ ママと一緒に 21,000円（教材費込み）

2011年度

(1) 実施状況

学 年	曜日	時 間	講 師	1期 受講 者数	2期 受講 者数
ママと一緒に (年少)*	水	11:40～12:20	藤原	-	10
年中	月	13:55～14:35	バード, ナイティン ゲール, 西嶋	18	19
年長	火	14:05～14:45	ナイティンゲール, 西嶋, 山根	18	18
1年	火	14:50～15:40	藤原	18	18
1年	金	14:50～15:40	バード	9	9
2年	火	14:50～15:40	ナイティンゲール, 西嶋	12	12
3年	金	14:50～15:40	藤原, ナイティン ゲール	16	15
4年	火	15:50～16:40	バード	8	10
5, 6年	水	15:50～16:40	西嶋	6	6
受講者数				105	117

*年少園児とその保護者5組。2期のみの開講

(2) 無料体験クラスの実施

聖学院の園児・生徒ではない、近隣の子どもたちを対象とした新規クラスの開設を目的とし、英語教室に対する需要を探り、当講座の教育を知ってもらうために無料体験クラスを計画した。

2012年2月17日（金）16:00～16:50 参加者7名